



人間学群

教育学類

心理学類

障害科学類

2022年度入学案内

教育学類

- 人間形成系列
- 教育計画・設計系列
- 地域・国際教育系列
- 学校教育開発系列



2022
College of Education
School of Human Sciences,
University of Tsukuba



新しい社会を 創造していく皆さんへ

人間学群長 鄭 仁豪

人間学群は、人間を探究する科学を行う学群です。1975年旧人間学類として設立され、2007年改変により現在の人間学群に至っています。1872年設立された師範学校設立時の「時代が必要とする人材養成の責務」を引き継ぎつつ、1975年人間学類の創設時に、先達が目指したものは、「未知なる人間の真の姿を科学的に追求し、人間の本性やそのあり方を学際的な広い視野から究明する学問」でした。その後、大学における組織やカリキュラムなどの変革や変貌が繰り返される中でも、人間を科学的に追求し、その本質を究明する人間学群の原点は、変わることはありませんでした。

人間学群は、現在、教育学、心理学、障害科学の3つの専門分野から展開されています。学類学群の45年の歴史の中で、その時代時代の使命と責任を果すべく、企業、行政、教育、福祉医療など、社会のあらゆる方面で活躍する大勢の人材を排出してきました。

現在社会は、第4次産業革命により展開される新しい社会 (Society 5.0) へ突き進んでいます。学校での学習や教育も、文系や理系を超えた学問領域の統合が行われ、人工知能を活用し展開されることが予想されています。人々にも創造的発想や柔軟な思考が一層求められるなど、社会における人材像も大きく変化しています。このような世界において、人間のあり方や生き様を問い続けることは、人間学群の社会的責務であり、人間学群が追い求める学問の原点といえます。人間学群は、これからの社会に生きる知識と思考を追い求める学問として大きな存在価値があります。

今年度は、人間学群の3学類合同の学群パンフレットを制作しました。これまでの歴史に学びつつ、これからの共生社会を創造する人材を育てる人間学群としての新たな決意の証です。これから、社会を創造し牽引していく皆さん、是非人間学群で皆さんの感性を育て、知恵と発想力を鍛えてください。皆さんと新しく改修した人間学群棟でお会いすることを心から楽しみにしています。

目次

教育学類	2
心理学類	18
障害科学類	26
人間学群の教員	42



1	2A211 2A212 2A213 2A214 2A215
2	2A102 2A103 2A104 2A105 2A106 2A109 2A110-1 2A110-2 2A111 2A113

目次

ようこそ教育学類へ	4
教育学類のミッション	5
履修の進め方と授業科目	6
系列紹介Ⅰ：人間形成系列	7
系列紹介Ⅱ：教育計画・設計系列	8
系列紹介Ⅲ：地域・国際教育系列	9
系列紹介Ⅳ：学校教育開発系列	10
卒業生の言葉	11
教員紹介	12
卒業後の進路	13-14
入試の仕組み	15
教育学類へのアクセス	16



ようこそ教育学類へ

みなさんは、筑波大学人間学群教育学類に対してどのような印象をお持ちでしょうか。本学類の特徴をキーワードであげるとすれば、「歴史性」「多様性」「学問性」「学際性」「国際性」の5点にまとめることができます。

「歴史性」とは、教育学類のもつ長い伝統を意味しています。筑波大学の前身は東京教育大学(1949-1978)であり、現在の東京キャンパスに位置していました。教育学類は、東京教育大学教育学部教育学科を引き継いでおり、さらに東京文理科大学(1929)、東京高等師範学校(1902)、東京師範学校(1872)とさかのぼれば、実に150年近い歴史を有しています。当然、この間多くの教授陣と卒業生を輩出して、日本の教育界を研究と実践の両面からリードしており、「教育の筑波」という言葉は現在でも広く伝わっています。

「多様性」とは、教育学を俯瞰的にとらえ、人間形成としての教育のあり方を追究していくことです。教育哲学、教育制度・行政、学校経営、比較国際、教育社会学、生涯学習、教育方法、教育臨床、教科教育、道徳・特別活動・キャリア教育といったさまざまな専門分野は、みなさんが想像している以上に教育学の奥深さを感じさせてくれるはずで、進路についても、小・中・高等学校の教員はもとより、文部科学省や教育委員会といった公務員や、教育関係の民間企業といった多様な道に、卒業生は進んでいます。

「学問性」とは、一人ひとりが研究者としての意識をもち、関心のあるテーマを深めることを

意味します。筑波大学は大学院が充実しており、教育学学位プログラム(博士前期・後期課程)に所属する大学院生との交流も活発に行われています。教員の指導の下、文献講読や調査に取り組み、質の高い卒業研究を完成させるとともに、自らも大学院に進学して大学教員を目指す学生が多いことも特徴です。

「学際性」とは、他分野の学問や従来の枠組みに収まらないテーマを学習することで、幅広い教養と総合的な知を身に付けることを目指しています。これは筑波大学の建学の精神でもあり、学部・学科という名称を使用しない点に学際性の姿勢が表れています。人間学群においても、隣接する心理学類、障害科学類の授業を積極的に履修しながら、学生の知的欲求に応える環境を用意しています。

「国際性」とは、海外に関する経験を積みながら、国際人としての資質を高めることを意味しています。さまざまな海外留学プログラムや世界各国からの留学生との交流を通じて、グローバルな見方や考え方に触れるとともに、学習においても英語の文献を読みながら、研究動向および海外の教育や学校の現状について学ぶことが期待されます。

学習に限らず、自分のやりたいことを自らの責任において自由に実行できることが、大学の魅力です。みなさんと一緒に、教育学類で学べる日が来ることを、教員一同楽しみにしています。

教育学類長 樋口直宏

教育学類の2つのコースと4つの系列

教育学類では、総合的な教育学を構成するさまざまな研究領域のつながりを考えて、2つのコースと4つの系列を提案しています。

2年次になると、小学校教員免許状の取得を強く希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。「初等教育学コース」に所属する学生は、「学校教育開発系列」に含まれる、小学校教員免許状の取得に必要な科目の授業を集中的に学びますが、「教育学コース」に所属する学生は、「人間形成系列」「教育計画・設計系列」「地域・国際教育系列」「学校教育開発系列」という4つの系列の中から、特に関心のある系列を1つ選び、その系列に含まれる授業を集中的に学びます。どちらのコース・系列の場合でも、学ばれた知識・技能を活かし

て、学生は4年次に、卒業研究をまとめていくことになります。

また、すべての学生は、4つの系列に含まれる科目を、必ずいくつかは履修しなければなりません。なぜならば、1つの系列のみの知識・技能を習得することよりも、教育学に関する知識・技能を全般的に学ぶことの方が、教育に関連した優秀な理論家・実践家となるには有効であると考えているからです。

教育学類の学生には、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、「教育学」という学問をさまざまな観点から学ぶことが求められるのです。



教育学類のミッション

人間学群における教育学類

筑波大学は創設以来、従来の制度にとらわれない新しい構想の下に大学づくりに取り組んできました。その象徴が、学部で代わる教育組織である「学群・学類」という考え方です。2007年度には学群・学類を新たにして、それまで「第2学群・人間学類・教育学専攻」と呼ばれていたものが、「人間学群・教育学類」として誕生しました。人間学群は、人間の発達や形成に関わる学問分野を対象とする学群として、教育学類、心理学類、障害科学類の3学類から成

り立っています。教育学類の学生は、3つの学問領域を学際的に学びながら、人間に関する総合的な知識・技能を習得することが期待されています。2021年度からは総合学域群の募集も始まり、人数は少ないものの2年次から教育学類に進む道も開かれています。

研究力と実践力

教育学類は、いわゆる教員養成課程とは異なります。その特色は、教員としての実践的力のみならず、学問としての教育学を考究し

ながら、研究者としての理論的な力量を身につけるところにあります。大学院とも連携しながら、博士号を有する教員や社会人、学校や生涯学習の場で活躍する研究者のような、研究力と実践力を兼ね備えた人材を、教育学類では育成することを目指しています。それは、筑波大学の教育学が求められている使命であるとともに、将来日本はもとより世界の教育や社会を築き変革していく中心的存在となるように、みなさんが教育学類で学ぶ意義でもあるのです。

達成すべき水準

人間に関する総合的な知と教養

複雑化・高度化する現代社会を見据えた確かな人間理解のために、教育学と心理学及び障害科学の基礎を包括した、学際的・総合的な知と教養を身に付けます。

教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方

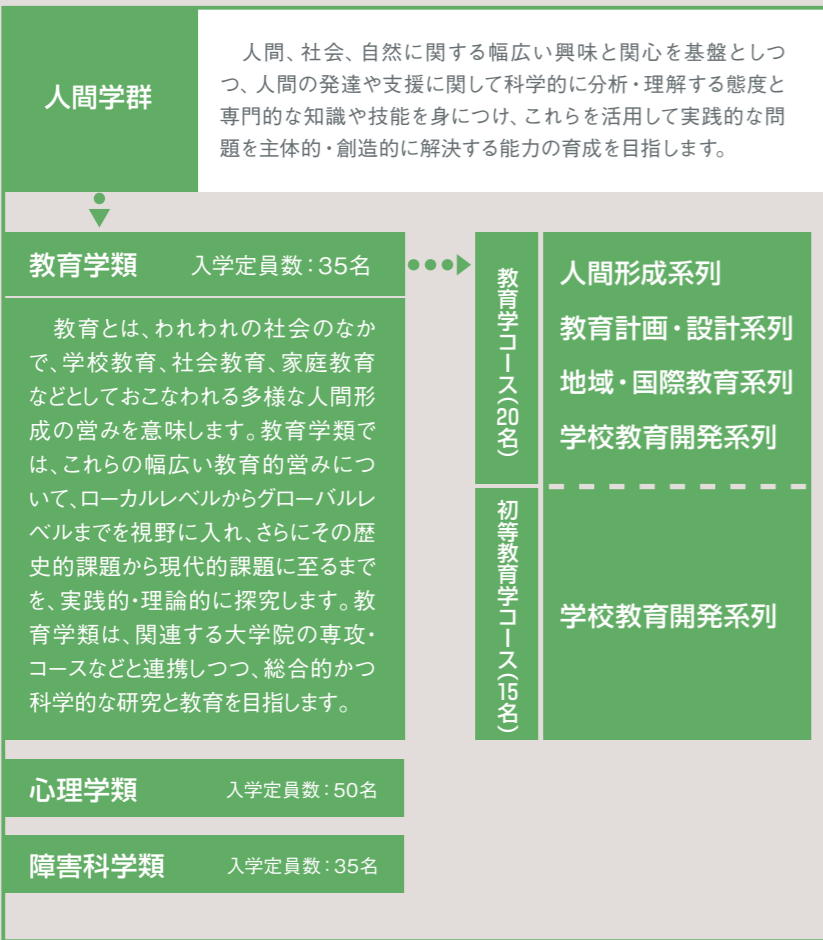
教育事象に対する鋭い問題関心と教育学全般についての幅広い学識を身に付け、教育事象についての総合的かつ体系的な見方・考え方を学びます。

教育専門家的資質

教育問題に対する理論的思考と現場体験との交流・融合を通して、教育学の専門知識を実践に生かし、実践を豊かに展開する能力を發展させ、学校、地域、国・自治体、企業、国際機関などの様々な「教育の現場」で必要とされる教育専門家としての資質を培います。

教育学の基礎的研究能力

教育に関する研究課題を設定し、史資料やデータを収集・分析しながら、説得力ある一定の結論を導く実証科学的思考力とともに、その成果を的確にプレゼンテーションする表現能力を培い、将来的に教育学研究の第一線を担う人材としての基盤を育成します。



卒業論文優秀者と筑波大学茗溪会賞受賞者

4年次には各自が様々なテーマで卒業研究に取り組みます。仕上がった論文は厳正に審査され、優秀な論文を書いた学生は学群長表彰の対象となります。また、クラス代表などを通して学生や大学のために顕著な活動を行った学生は、筑波大学茗溪会表彰の対象となります。



教育学類新入生オリエンテーション

履修の進め方と授業科目

筑波大学は創設当初より、教養課程と専門課程というような区別を設けず、教養教育的な科目（「基礎科目」）と専門教育的な科目（「専門基礎科目」「専門科目」）を有機的に連携させた教育課程（カリキュラム）を編成しています。

1年次の授業科目は、「基礎科目」と「専門基礎科目」が中心です。「専門基礎科目」には「教育学類共通科目」のほか、「人間学群コアカリキュラム」のような人間学群に共通する入門科目があります。1年次の履修では、教育学に加えて、心理学と障害科学という人間学群に属する他の学問分野を学ぶことができます。また、2年次になると、「教育学コース」と「初等教育学コース」に分かれて、「教育学類共通科目」と「専門科目」を履修することになります。2年次に履修する授業は、1年次に履修する授業と比べると専門性が高くなるのが特徴です。また、「教育インターンシップ実践演習」や「教育学研究法」のように、さまざまな体験を通して、教育学を実践的に学ぶことができます。そして、3年次には「専門科目」を履修することで、教育学を専門的に学ぶ機会が増大します。先に教育学類には4つの系列があることを説明しましたが、3年次には4つの系列の授業を全般的に学ぶとともに、特に関心のある一つの系列の授業を集中的に学ぶこととなります。こうして身に付けられた教育学の専門的知識が、4年次に取り組むこととなる「卒業研究」の基礎となります。

これ以外に、教職免許を取得する学生は、「教職科目」を履修することになります（ただし、小学校教員免許の取得を目指す学生は、原則として2年次に「初等教育学コース」に所属したうえで履修することになります）。教職免許に必要な「教育実習」は、筑波大学の場合、4年次に行うこととなります（小学校教員免許の場合、原則として3年次に行う）。また、社会教育主事の資格を取得する学生は、「社会教育主事科目」を2年次・3年次に集中的に履修することになります。さらに、筑波大学には、学生が人間学群・教育学類という垣根を越え、他の学群・学類の授業を自由に履修できるという特徴があります。これが、「その他」の科目です。

大学の授業は、高校時代とは異なり、学生の主体性が基本となります。自ら学ぶことを通してのみ、学問の奥深さと面白さを学ぶことができるのです。

	1年次	2年次	3年次	4年次		
基礎科目	総合科目				<ul style="list-style-type: none"> 新入生に対し実施するフレッシュマン・セミナーおよび学問への誘い 広く社会や世界の視座から多様な考え方、生き方に触れる学士基礎科目 	
	体育	体育			健康管理及び体力増進を目的とする科目	
	第1外国語 英語				外国語の実用的能力の養成を目的とする科目	
	第2外国語 初修外国語				外国語の入門的・基礎的な学習を目的とする科目	
	情報				情報科学に関する基礎的な能力の養成を目的とする科目	
人間学群	人間学				「人間とは」を多面的に学ぶ科目	
	教育基礎論				教育学の入門科目	
	学校の経営・制度・社会					
	心理学概論				心理学の入門科目	
	障害科学Ⅰ又はⅡ				障害科学の入門科目	
専門基礎科目	キャリアデザイン 入門				卒業後の進路(就職)を考えることを目的とする科目	
	教育インターンシップ 基礎論				教育現場における実践的な活動を行うための準備科目	
	教育インターンシップ 実践演習				教育現場における実践的な活動を行う科目	
	教育学研究法A				教育学・教科教育の基礎的領域における文献研究を行う科目	
	教育学研究法B				教育事象を調査によって実証的に研究するための知識・技能を習得する科目	
	教育学実践演習				卒業研究につながる科目	
	卒業研究				4年間の学習の成果を卒業論文にまとめる科目	
	専門科目	●教育学コース				4つの系列の授業を全般的に履修するとともに、特に関心のある系列の授業を集中的に履修する
		〈人間形成系列〉 概論・演習・実践演習				
		〈教育計画・設計系列〉 概論・演習・実践演習				
〈地域・国際教育系列〉 概論・演習・実践演習						
〈学校教育開発系列〉 概論・演習・実践演習						
教職科目	●初等教育学コース				教員資格を得る上で履修を定められた科目	
	〈学校教育開発系列〉 概論・演習・実践演習					
主事科目					社会教育主事資格を得る上で履修を定められた科目	
その他					教育学類の履修に関連して周辺領域から履修できる科目および幅広い教養を身に付けるために履修できる他学群・他学類の科目	

教育計画設計系列

授業や学級活動、学校行事など、学校における学習の場は、さまざまな組織や制度に支えられて成り立っています。たとえば6・3・3制や学校の中での学年や学級(クラス)という仕組みがあります。また、学校の教育活動が効果的に行われるために学校では教職員の協力体制や父母・地域住民の参加の仕組みが作られ、自治体の教育委員会は教職員人事や学校への指導を行ったり、予算を配分したりしています。国はこうした活動のための法制度を整備したり、補助金などを通じて支援したりしています。

教育計画・設計系列では、学校教育をデザインし、支援する活動について研究します。教育の制度、行財政・法制、学校の組織・経営について、理論や歴史、日本や諸外国の制度や実践から学びます。そして、これからの学校教育のデザインと支援を開発・提言・実践できる人材を育成します。

教育計画・設計系列では、学校教育をデザインし、支援する活動について研究します。教育の制度、行財政・法制、学校の組織・経営について、理論や歴史、日本や諸外国の制度や実践から学びます。そして、これからの学校教育のデザインと支援を開発・提言・実践できる人材を育成します。

教育を設計するという面から、日本の未来を担う子どもたちをはじめ、多くの人に影響を与える教育の在り方について考えます。学びを通じて、教育についての自分の視野が広がっていく面白さを感じてほしいです。教育制度や教育行政など、教育システムに興味のある人は、ぜひ教育計画・設計系列での学びを楽しんでください。



明治期の教科書『新編修身教典 尋常小学校用』1900年(日本教育史調査室蔵)

教育政策に関する報告書類

人間形成系列において、学生は教育に関する基礎を学ぶことができます。その中には、教育哲学・日本教育史・アジア教育史・外国教育史・道徳教育学・キャリア教育学という分野があります。

現在、この系列の授業のなかには、主に、世界や日本の歴史をさかのぼって、学校というものがどのように成立・展開してきたのかを考えたり、今日の教育のあり方を導いた偉大な人物の足跡・思想をとらえなおしたりする授業が開講されています。より具体的に言うと、前近代を中心とする日本教育史の全体像、近代を中心とする日本教育史の歴史像、東アジア教育史の比較研究、クラス・カリキュラム・一斉教授の思想と歴史、シュタイナー教育の人間形成、諸外国の道徳教育の諸相、古代ギリシャの哲学やソクラテスの教育思想、などを内容として取りあげています。このような内容を学ぶことで、教育学の基礎的知識が習得されるのです。

この系列のなかで卒業研究をまとめることになれば、教育の本質や原理を考える基礎的教養が身につくために、学界や教育界などの多様な分野への進路選択が期待されます。

系列紹介Ⅰ

人間形成系列

在校生からのメッセージ

熊谷 洋輝

人が生まれてから必ず通るであろう教育という過程。「先生になるつもりはないけど、人の個性がどのように育つのか知りたい」そんな些細な疑問がきっかけとなり、教育学類に入学しました。入学後も入学前に抱いていた学類のイメージは大きく変わりました。教育学類では教育を幅広く、深く、学問として追求することが出来ます。教科教育から生涯学習、さらには高等教育や国際的な一面まで。そこが教員養成に止まらない教育学類の魅力ですね。

私は教育制度や教育実践について学修する中で、それらを支える哲学や思想の存在に気付いたことが、人間形成系列への入り口になりました。例えば「なぜ教育は皆に平等に保障されるべきなのか」このような漠然とした問いにも、根本にはそれを支える「平等」やそれに相対する「自由」の政治的・社会的理念が存在しています。そうした考えを教育に当てはめて追求することで、今までとは異なる新しい「教育」の視点が見えてくるでしょう。ここがまさに人間形成系列の魅力です。皆さんが当然のように受けてきた教育も、実はそれを根本から支える先人たちの膨大な教育哲学や教育思想の歴史によって成り立っているのです。人間形成系列では、教育哲学、教育思想、教育史、道徳教育学、キャリア教育学の分野を扱い、教育学の基礎となる教育や人間の本質的な部分を探求することで、皆さんの教育への視野が大きく広がります。

教育においてある事象がなぜ成立し、なぜ今も大切にされているか、いまいかなのか。それを支える根本を知ること、教育をより深く深く考えることが出来ます。皆さんが描く教育像を飛び越えて、新しい世界へ一歩足を踏み入れてみませんか。私たちの進撃はこれからだ。



卒業研究の例

- 純潔教育の史的展開に関する研究
- 田中耕太郎の人格概念に関する研究
- 酒井雄雄の歴史教育論 ― 現代的視点からの再検討 ―
- 1970年代のアメリカ合衆国におけるキャリア教育の再評価 ― 「学校を基盤とする総合的キャリア教育モデル」の実践方策に焦点をあてて ―
- 普通科高校におけるキャリア教育の中核的な時間の運用方策に関する研究 ― インターンシップ等の体験的な活動との関連に着目して ―
- 女子少年院における「職業補導」・「職業指導」に関する研究
- 「東北」と「方言」をめぐる教育史的展開 ― 1900年代から1950年代における教師の実践と動向に着目して ―
- 遠山茂樹の通史学論に関する研究 ― 小・中学校を中心にして ―
- 現代フランスにおける<他者の善待>思想の教育学的可能性 ― 遍在する排除の暴力に抗して ―
- 脱人間中心主義的教育構想と自然 ― アンドリュー・ドブソンのエコロジズム論に着目して ―
- 貧困にある子どもたちの社会的移行を支えるためのキャリア教育の基礎理論に関する研究 ― ケイパビリティ・アプローチの視点から ―

開設授業科目の例(令和3年度の場合)

〈講義科目〉

教育哲学：個性の育成と社会性の育成をはじめとした、教育を取り巻く価値の二項対立に注目しながら、現代の教育に関わるさまざまな問題と、教育のあり方とを検討していく。その際、近代教育理論・教育思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。

教育思想論：本科目は、「教育とは何か」という根源的な問いをはじめ、現代に生きる我々が日ごろ、無自覚・無意識的に自明の理として前提としてしまっている教育の概念や考え方などについて、それらを改めて相対化し、問い直してみようとするものである。キャリア教育論：キャリア教育に先行して実践されてきた職業指導・進路指導の歴史的展開と理論的背景、キャリア教育提唱後の推進施策及び学校における諸実践の特質と課題に関する講義を通して、キャリア教育についての理解を深め、今後の在り方を探る。

〈演習・実践演習科目〉

教育哲学演習：個性の伸張(個人の自由の拡大)と社会性の育成(社会の維持・発展を担う市民の育成)という、対立的要素を含んだ二つの教育目的をいかに両立させるか、という近代教育が抱えてきた課題について、現代の教育に関わるさまざまな問題を取り上げながら、考察していく。

キャリア教育論演習：日本を含め、世界の多くの国におけるキャリア教育(及び類似的教育実践)を支える基礎理論は、アメリカ合衆国の研究者らによって構築されたものである。本演習の前半ではアメリカの学校教育について日本語で書かれた文献を、後半ではアメリカの教育関係者向けに書かれた英語の文献を読みながら、アメリカにおけるキャリア教育実践の特質と課題を探る。

アジア教育史演習：韓国において朝鮮教育史に関する2泊3日の巡検を行なう。近世の科挙制度に関する建物や、近代教育史の史料や当時の状況などを自分の目で確かめ、考えることが目的である。

卒業研究の例

- 中学校における教員の意欲を高める校内研修に関する研究 ― 教員同士のコミュニケーションに着目して ―
- 不登校支援における教育支援センター(適応指導教室)の役割と課題に関する一考察 ― 指導員の認識の検討を中心に ―
- 児童生徒のよりよい人間関係を形成する学級担任のあり方 ― 理論と教員インタビューの分析から ―
- 人口減少自治体における学校・地域関係の再構築に関する研究 ― 「信州型コミュニティスクール」の導入事例に着目して ―
- 小規模校のコミュニティ・スクール活動の意義と課題 ― 地域住民の参画の様子に着目して ―
- 公立学校における働き方改革に関する研究 ― 学校現場の実施状況と教師の職務意識に着目して ―
- 校則の教育的必要性に関する一考察 ― 判例の検討を中心に ―
- 公立小中学校における女性管理職の登用について
- 小学校における学級経営の在り方に関する研究 ― 児童理解と発達段階に着目して ―
- 高等学校の商業教育における技能検定の制度的展開

開設授業科目の例(令和3年度の場合)

〈講義科目〉

教育制度論：今日、さまざまな教育改革が行われているが、ではどのような学校教育が望ましいのか。本講義では、「学校教育制度をつくってみる」という観点から、学校教育を構成する主要な制度的要素を取り上げ、現行制度の根拠とその改革の可能性を検討する。学校経営論：近代学校というシステムにおいて「経営」が必要とされるようになったのはなぜか? 「学校経営」という概念はこれまでどのように理解されてきたのか、また、捉え直されてきたのか? 学校教育が多様で複雑な課題に直面し様々な教育改革が進められる現代において、「学校経営」のあり方をどのように考えればよいのか? これらの問いを中心に据えて、講義と討議を織り交ぜながら進めていく。

比較学校経営論：日本、イギリス、オーストラリア等の学校経営の理論・政策・実践について検討し、今後の学校経営改革の在り方を考える。前半は知識・視点・考え方の習得(理論と実践)を重視する。後半は、調査力・思考力・表現力の習得(政策・経営実践・事例など)を重視する。

〈演習・実践演習科目〉

教育制度論演習：教育政策において、「資質・能力(コンピテンシー)」がどのように論じられているのか、国内外の施策を取り上げ、その内容を検討する。から進めていく。

学校経営論演習：学校をよりよくしていくということはどういうことか? よりよい学校を創造するうえで「組織」「経営」という概念で括られる諸条件はどのような機能や意味をもつのか? そしてどのようにあるべきであり、実際にはどのようにありうるのか? これらの問いを中心に据えて、文献読解、受講者自身の調査と発表、討議、そして学校訪問調査などを織り交ぜながら進めていく。

比較学校経営論演習：諸外国と日本の教育について学ぶ。各国の教育改革、学校経営改革などを検討し、新しい時代の学校と教師の在り方などについて考察する。現在と未来の社会情勢をふまえて、初等中等教育の最新の政策と課題について論究する。

在校生からのメッセージ

荒井 実加子

皆さんは、今受けている教育や今まで受けてきた教育が、どのような意図をもってどのように運営され成立しているのか分かりますか。私は、教育計画・設計系列で学ぶなかで、学校という環境に身を置き、教育を受けてきたにも関わらず、学校や教育の仕組みについて知らないことばかりだと感じる事がたくさんありました。

この系列で学ぶ面白さは、変容し続ける現代社会において、今そして未来の教育に何が求められるのかを考えることにあります。教育計画・設計系列では、現行の教育制度について、どのような改革が提言できるのかを考える授業があります。私は

その中で、ある制度や施策を運用するためには、賛成・反対の対立、家庭・学校の反応、その他様々な立場の人の意見を多角的に捉えることが重要だと学びました。それは、制度設計や学校運営の難しさであり、同時に、今まで見ていなかった視点を学ぶ面白さでもあります。

学校教育は、学校教育法、学習指導要領などの様々な法律、教育課程などの基準によって運営されています。しかし、実際に定められた法律や基準が、それらの目的を実現できるように作用しているのでしょうか。この系列では、制度や基準がどのように作用しているのか、どのような課題を解決していかなければなら



地域・国際教育系列

教育とは、学校、地域社会、家庭など、さまざまな「場」でおこなわれている多様な人間形成の営みであるといえます。本系列では、こうした教育的営みを社会・文化とのかかわりでローカルレベルからグローバルレベルまでも視野に入れて実践的・理論的に探究する授業科目で構成されており、多様なレベルにおける教育制度・政策、教育・学習活動について幅広く理解する視点を持つという点に特徴があります。

本系列の授業科目を通じて、公民館、図書館、博物館、カルチャーセンターやスポーツ施設等の生涯学習の場で学習支援を行う地域社会教育の専門家、国内外を問わず教育行政、学校現場、市民団体等の場でグローバルな視野で教育支援に従事する専門家の道を目指してほしいと考えます。



フィールドワーク報告会の様子

卒業研究の例

- ミャンマーの国づくりにGlobal Citizenship Education が果たす役割 —ノンフォーマル教育の実践に着目して—
- 東京2020に向けたオリンピック・パラリンピック教育推進における課題 —政策理念と実施状況に焦点を当てて—
- 女兒向けアニメの少女象徴にみる「共生」—『プリパラ』を消費する「大きなお友達」に着目して—
- NPOによる多様な他者との交流を通じた若者の居場所づくり —多世代・多文化の交流拠点「CASACO」を事例として—
- 地域に根差した公民館報の持つ役割と可能性 —笠懸公民タイムスを事例として—
- 日本人学校における教員の葛藤と実践 —多様化する小規模校の教員へのインタビュー調査から—
- 学童保育における障害児の受け入れの意義と課題 —指導員の葛藤に着目して—
- 運動部活動をめぐる課題とその改革に関する研究 —部活動指導員制度とその実態に着目して—
- 社会的排除に向き合う公民館実践に関する一考察 —那覇市立若狭公民館に着目して—
- 社会教育委員制度の現状と課題に関する研究 —千葉県松戸市を事例として—

開設授業科目の例 (令和3年度の場合)

〈講義科目〉

国際教育論：この授業では、日本における外国人の子どもの教育問題を取り上げる。外国人子どもたちの教育保障(教育への権利、親の就学義務)に焦点を当て、関連文献、文部科学省政策文書・統計を解説し、テーマに関連するドキュメンタリーを鑑賞・分析し、討論を行う。
環境教育論：環境教育の歴史、目標、内容、方法についての基礎的理解を図ることを目的とする。環境教育の発展過程・現状・課題を探りながら、環境教育の目的や方法と環境教育の授業の構成と展開の特質等を学び、今後の環境教育のあり方を考察する。可能な限り環境教育の授業の観察(動画視聴等)、水質調査の実験・実習、野外での自然体験活動・観察も含める。

教育改革の国際比較：諸外国の教育改革に着目し、各国が取り組む教育をめぐる現代的な諸課題について、日本も含めた国際比較の観点から考察する。授業では、前提となる各国の教育理念・制度・政策についての理解を深めつつ、シメズンシップ教育、移民の教育、ユネスコが推進する国際的な教育プログラム、新自由主義的な教育改革、国際学力調査など、受講生の関心を加味しつつテーマを決定し、国際的な教育改革の動向と各国の対応について検討する。外国語(主として英語)の原典を参照しながら授業を進める。

〈演習・実践演習科目〉

比較教育文化論：モスクワ等海外への国際実習を通じて、教育や文化の現状を学習するとともに、日本や他国との比較を行い、それぞれの特徴を考察する。

比較高等教育論演習：大学の授業で用いられる教育技法の一つである「ディベート」について、多様な技法を学ぶとともに、理論的思考力の育成を目的とする模擬授業を計画実践する。

教育社会学演習：文献を講読し、討議・検討することで、社会学的に解明すべき教育問題に目を向ける。次いで、問題のテーマ化を図りながら視点を定めることにより解明すべき課題を導出する。課題解明のための方法を学びながら、調査研究を企画・計画する。もって、教育問題に社会学的にアプローチする基礎を身につける。

在校生からのメッセージ

島袋 恵

高校生が思い浮かべる大学生活とはどのようなものなのでしょうか。これまでと違って、自分の学びたいものを学んだり、サークルに所属したり、バイトをしたり...など夢いっぱいだと思います。教育学類では、「教育」というものをそれぞれの興味関心のもと、深く学び、ゼミなどで研究テーマを設定して議論するなど、学業面での充実はもちろんのこと、クラスのみならずスポーツ大会に出たり、イベントで集まったり、学業以外のことも全力で楽しむことのできるクラスメイトと4年間切磋琢磨しながら、大学生活を送ることが出来ます。

地域・国際系列では、地域社会での学びである生涯学習・社会教育の分野と、海外の教育を学ぶ比較・国際教

育の分野を学ぶことが出来ます。他の系列と比べると、フィールドワークなどを通じて実践的に学べることがこの系列の特徴です。例えば、比較教育文化論という授業では海外の教育を理論的に学ぶと同時に、実習で現地へ足を運び、さらに理解を深めていくことが出来ます。私自身、ロシアでの海外実習や茨城県大子町でのフィールドワークに積極的に参加し、そこで行われている様々な教育実践に触れることで「教育」をあらゆる視点から捉えることが出来ました。

私は、教育格差に興味を持ち入学しましたが、「教育」を改めて自分の中で見つめなおし、地域社会での人との繋がりや、地方の若者の居場所感をテーマに研究に励んでいます。皆さんも、教育学類での学びを通じて、一緒に「教育」の新たな一面を探しに行きませんか。



教育実習生による授業風景(筑波大学附属小学校)

系列紹介Ⅳ

学校教育開発系列

学校教育開発系列のポリシーは、「進化する学校教育のエキスパートを育成する」ことにあります。学校は日々、児童・生徒が学習する場です。児童・生徒の成長とともに教師の関わり方は変わり、社会背景とも絡みながら、学校は進化し続けます。そのような学校教育の基礎・基本を学び、さらにそれを基盤として進化する学校教育に適応し、よりよい方向に変えていく力をもつ人間を育成することが学校教育開発系列の目指すところです。机の上で学校教育に関する理論を学ぶことだけが重要なわけではありません。実際に学校に飛び込み、自らの目で学校教育の様々な課題を見出す。その中から自分の研究テーマを設定し、授業で学んだ理論を基盤としながら、自分の観点でそのテーマを追究していく。そうすることが、学校教育の理解をさらに深め、よりよい学校教育を構築していくことにつながっていくとわれわれは考えています。特に初等教育学コースでは、附属小学校との連携のもと、現場に根差した実践力、研究力の育成を図ります。

さあ、あなたも学校教育開発系列で、世界を担う学校教育を極めてみましょう!

卒業研究の例

- 理解しやすい英語の発話とは —発話の言語的特徴と非英語母語話者による評価の関係から—
- 児童の学校生活における安心感の検討 —教師や友人との経験・愛着に焦点をあてて—
- 高校生物教育における進化を軸とした生物概念の体系化に関する研究 —高校生の生物概念間の関連付けに着目して—
- 探究学習における生徒の課題発見過程 —高校生の認知的・感情的な価値の獲得に着目して—
- アクティブ・ラーニングを効果的に導入するための組織づくり —中等教育学校を事例として—
- 小学校国語科における言語感覚の育成に関する研究 —教科書教材の「適切さ」からの分析—
- 熟議民主主義を担う市民育成のための社会科授業 —D.Hessの政治的論争問題学習論に着目して—
- 高校生活における困難からの回復プロセスとレジリエンスの関連 —大学生への回想調査から—
- 中学校数学科における数学的モデル化の教材開発プロセスに関する研究 —題材の現実性に焦点を当てて—
- 方向感覚を養う地理教育 —オリエンテーリングを使った授業例—

開設授業科目の例 (令和3年度の場合)

〈講義科目〉

学習指導論：授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、小学校の実践例を中心に取り上げながら、授業の設計や教材、教育機器、指導技術や学習形態等について考える。

社会認識教育論：学校教育で展開されている社会認識を高めるための教育について、その理論と方法について概説する。具体的には、サービス・ラーニング、多文化教育、まちづくり学習、主権者教育、人権教育などを取り上げる予定である。

初等外国語：英語の音声や文字、言語習得理論など小学校外国語教育に必要な基礎的知識について講義する。また、それらの知識を授業実践において活用できるようになったり、授業実践に必要な英語力を身につけるためにグループワークや発表を行う。

〈演習・実践演習科目〉

数学教育論演習：数学教科書、国内外の学力調査問題の分析及び討議を通して、数学教育のカリキュラム、授業、学力評価、教材開発等に関する理解を深める。

特別活動論演習：特別活動では、児童生徒が集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮して生活上の課題を解決するが、理論やエビデンスを活用しないまま教師の経験則で展開されているという課題がある。本授業では論文を精読することで、人文・社会科学の観点から特別活動を考察し、効果あるカリキュラムや実践について探求する。

海外授業研究演習：本授業では、日本の授業研究として知られる授業研究の方法を、小学校低学年の算数教材を通して英語で学ぶ。また、様々な教科で求められる授業づくり方法を英語で習得する。

在校生からのメッセージ

常井 直樹

「教育」という言葉を聞いたとき、多くの方が学校を連想するのではないのでしょうか。学校では授業などの学習に加え、児童生徒の人格の完成を目指し、様々な教育活動が行われています。それらについての学びを深めるのが、学校教育開発系列です。

学校で毎日当たり前に行われている授業ですが、その授業について深く考えるという機会はこれまで多くはなかったかと思います。私自身は、高校生の頃は授業がどうやって成り立っているのかを考えたことがないどころか、熱心に授業を受けていたとは言えませんでした。大学生になり、本系列で学習する様々な学習指導法だけを見て多様な考え方が分かることが分り、当時はまったく意識せず、気にもしていなかったような教員による働きかけがあったのだと気づきました。ほんの少しですが、高校生に戻って授業をもう一度受けてみたいと思ったこともあるほどです。

学校教育における教育活動にはこれといった正解はないと思います。だからこそ、自分の関心に基づいたテーマについて考えを深めていくことは、皆さんにとって非常に意義のあることだと思います。私は、中高一貫校における教育活動に関心があり、そのことについて研究を行っています。中高一貫校では、高校の教育課程を前倒して中学校で指導することができることをご存じでしょうか。これはほんの一例で、本系列の学習を通して新しい知識を得ることはたくさんあります。教育を受ける立場からは見えない学校教育の奥深さを感じてほしいと思います。

後輩達へ 卒業生の言葉

井口 謙 [RKB毎日放送]

●平成29年度卒業



平成29年度に教育学類を卒業し、現在は福岡県の放送局でアナウンサーとして働いています。「教育学」と「マスコミ」、一見すると全く違う分野のように感じられるかもしれませんが、しかし、大学時代に学んだことは今の私の仕事を大きく支えてくれています。アナウンサーとして「伝える力」はもちろん、「聞く力」も求められるのです

が、それは教育現場でも同じことだと思います。教育臨床学を専攻する中で様々な人にインタビューをしたこと、教育実習での授業の経験、また所属していた陸上競技部での活動、大学時代の時間のすべてが今の仕事に繋がっていると感じています。

筑波の教育学類は非常に選択肢が豊富だと感じます。教育学類所属という、「先生になるの?」とよく言われましたし、自分自身も教師を目指して進学する際、教育学は閉鎖的だというイメージを持っていました。しかし実際は、分野はとて多く扱う範囲も様々で、それぞれの分野のエキスパートである先生方のご指導を受けることができますし、卒業生の進路も千差万別です。そして何より、教育学類での学びはその後の進路にかかわらず大きな自らの財産になります。

楽しい大学生活を送りながら、様々なことに挑戦してみてください!

榎 紗也加 [リクルート]

●平成30年度卒業



平成30年度に教育学類を卒業し、現在はリクルートという企業で働いています。仕事内容は多岐に渡りますが、「新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現を目指す」ことを理念に掲げている企業です。「教育を学んだのに、民間企業で働いているの?」と思った方もいるかもしれませんが、教育学類で学んだことは今の私に大きな影響を与えています。

私は「自分らしい生き方とは何だろう」という漠然とした疑問を持ちながら教育学類に入学しました。テストで良い点を取るための教育ではなく、子どもたちが本当の「自分らしさ」を見つけられるような学校教育制度を作りたいと思っていたからです。入学後、様々な分野のエキスパートの先生方と出会い、あらゆる知見に触れ、「教育=学校」であるという考え方が一変しました。教育とは、人生そのものに密接に関わるものであり、学校の中だけで完結するものではないと気づくことができたのです。私が今の進路を選んだのは、その気づきがあったからだと思っています。

筑波には、あらゆる角度から学びを深められる環境があります。皆さんの大学生活が多くの出会いと気づきに溢れるものでありますように。応援しています!

米本 央 [法務省]

●平成29年度卒業



私は法務省矯正局に入省し、現在は法務教官として勤務しています。法務教官とは、非行をして少年院などに収容されている少年の更生と再犯の防止を目標に教育をする仕事です。

子どもの頃から、なぜ学校に通わなければならないのか不思議に思っており教育学類に入学しました。しかし、教育学を学ぶなかで、家庭の環境や経済的状況

に関係なく、全ての人が一定の水準を持った教育を受けることができるためにはどうすればいいのかへと関心が移り変わりました。義務教育制度では、ある一定の年齢に達した子どもは皆学校に通い、義務教育修了程度の能力が身につくことになっているけれど、不登校や病気で入院している子は学校に通えていないし、学校に通っていても授業についていければ義務教育修了程度の能力を身につけるのは難しいということに気づきました。学類での学びを通じ、制度と実態の差を問題として捉えた時、制度の枠から外れてしまっており、その少数の子について考えていこうと思うようになったことが、現在の仕事につながっています。

筑波では、教育学の様々な分野があり多角的に学ぶことができます。たくさんの方と触れ、それまでの自分にはなかった見方をどんどん吸収していただきたいと思います。

長瀬 利勝 [北海道公立高校]

●平成30年度卒業



私は現在、稚内で教員をしています。5月下旬に桜がやっと咲き、6月でも最高気温が20度前後の海と風の町で、授業と部活をメインに、高校生たちと楽しく毎日を過ごしています。

わたしははっきりとしたきっかけもなく、いつの間にか将来の夢が教員になってきました。ただ、筑波大学という目標ができた理由は明確で、中学校の時

の担任の先生に「教育を学ぶなら筑波だ」と言われたからです。しかしその時は、筑波大学の教育学が深い歴史を持つことはもちろん、つくばがどこなのかもわかりませんでした。

教員となった今やっと、筑波大学で教育学を学ぶ強みを1つ挙げられそうです。それは、教育に対する視点を幅広く身につけられることです。筑波大学には、教育学のあらゆる分野のエキスパートがいらっしゃいます。したがって、同じ教育に関する問題に対して、異なる視点やアプローチが存在します。学類の4年間ではこの視点の多彩さに驚き、「こういう見方があるのか」という発見をたくさんしました。今教員として教育の現実的な問題にぶつかったとき、経験値の少ない新米を助けてくれるのは、視点やアプローチの多彩さだと実感しています。

教員紹介

氏名	研究テーマ
教育哲学	
平井 悠介	現代英米圏の教育哲学、教育における平等論とシティズンシップ教育論
日本教育史	
平田 論治	近代日本教育国際関係史
道徳教育	
田中 マリア	道徳教育、ルソーの教育思想に関する研究
キャリア教育学	
藤田 晃之	キャリア教育論(日・米・デンマーク比較研究)、教師教育制度論
特別活動学	
京免 徹雄	教科外活動の国際比較、開発的生徒指導論、フランスの進路指導
教育制度学	
藤井 穂高	教育改革、フランスの教育制度、幼児教育
比較・国際教育学	
川口 純	途上国のインクルーシブ教育、教育開発論、教員政策
菊地 かおり	シティズンシップ教育、移民・外国人の教育、国際理解教育
タスタンベコワ クアニシ	言語教育政策、旧ソ連(CIS)諸国・中央アジア諸国の教育政策、ユネスコの教育政策
学校経営学	
佐藤 博志	学校経営論、オーストラリアの教育改革
浜田 博文	学校改善論、アメリカの学校経営政策論、教師教育論
生涯学習・社会教育学	
上田 孝典	日中の社会教育・生涯学習実践研究、近代中国の社会教育史研究
学習指導学	
樋口 直宏	教育方法学、授業研究、批判的思考論、小中一貫教育
教育社会学	
徳永 智子	日米における移民の教育、異文化間教育、参加型アクションリサーチ
教育臨床学・生活指導学	
庄司 一子	児童生徒の抱える問題、仲間関係、教師との関係、教師と生徒のメンタルヘルス
高等教育論	
田中 正弘	イギリスの大学改革、大学教育の質の保証、専門職養成の在り方
人文学科教育学	
長田 友紀	国語教育、コミュニケーション教育、音声言語教育の研究
甲斐 雄一郎	国語教育史、言語表現論
勝田 光	国語教育、読むことの学習指導、子どもの文学
名畑目 真吾	英語教育、英文読解プロセス、小学校英語
社会科教育学	
井田 仁康	社会科・地理教育の理論的・実践的研究
唐木 清志	社会科教育学、アメリカ公民教育論
國分 麻里	社会科・歴史教育の理論的・実践的研究、韓国の社会科教育研究
理科教育学	
遠藤 優介	理科教育目的論、ドイツ科学教育論
山本 容子	理科教育、生物教育、環境教育論
数学教育学	
磯田 正美	算数・数学の学習指導法の研究、数学教育の国際共同研究
小松 孝太郎	学校数学における証明、数学教育における課題設計、ICT活用、科学教育論
清水 美憲	数学的思考の認知的研究、数学教育の国際比較
蒔苗 直道	数学教育史
特任助教	
朝倉 雅史	教員の養成と研修、身体教育、部活動改革

卒業後の進路



大学院進学者からのメッセージ

香川 圭

教育学学位プログラム
教育基礎科学サブプログラム



私は筑波大学の人間総合科学研究群（教育学）に進学し、現在は大学院生として教育哲学領域の研究を進めています。教育哲学とは、字義どおり、社会のなかで起きている教育現象あるいは教育的現実につい

ての哲学的考察を主立った特徴とする学問です。このように堅苦しく書く「なにか難しいことをしているな」と感じると思います。しかし、たとえば「学校ってなんで行かなきゃいけないのだろう」「ニュースで見たけど、あの教育って本当に良いことなの？」のような、誰もが一度は抱えたことのある、そうした疑問のなかに教育哲学的な営みが潜んでいるのだと思います。そして、そのような視点を教えてくれたのが教育学類での学びでした。

赤裸々に言ってしまうと、私の教育学類への志望動機には強い熱意はなく、なんとなく入学しました。「教育なんてあって当然のものだ」「いまさら何を研究しろ」とくらの思考さえ心の片隅に秘めているほどでした。しかし、教育学の多彩な分野に精通している先生方に出会い、むしろ自明視されてきた教育システムだからこそ、それを問なおすことに研究の可能性が広がっていることを学びました。教育の“当たり前”を疑う。これは勇気がいることです。しかし同時にワクワクもしませんか？

教育学類での学びは常に「再発見」の連続です。皆さんもぜひ楽しいキャンパスライフと一緒に、色々な「再発見」を実感してみてください！

村田 翔吾

人間総合科学研究科
学校教育学専攻



私の専門領域は数学教育学です。学類2年生の授業において「分数のわり算は、なぜひっくり返してかけるのか。」という質問に答えられなかったことをきっかけに、研究を始めました。当時、「数学を教えることに関する

研究領域があるんだ」と感銘を受けたことは、今でも覚えています。教育学類には、教育に関わる多様な研究領域があるため、自分の専門領域を深めると同時に、多様な視点から自分の領域を見ることが出来ます。教育学類の4年間で、各領域の第一線で活躍されている先生方から御指導を頂いたり、興味関心の異なる仲間たちと議論したりしたことは、大学院に進学した現在でも貴重な経験です。ぜひ教育学類へ入学して、教育について考えてみませんか。

長 創 一 朗

人間総合科学研究科
ヒューマンケア科学専攻



高校生の頃に読んだ漫画の「100年先の未来を変えるのは教育だ!」というセリフが頭から離れず、教育について学びたいと思い、筑波大学に入学しました。大学では、先生方や友人たちと議論を重ねる中で、教育

について自身の数少ない経験から「正しい」と思っていたことが覆される場面が多々ありました。無批判的に「教育＝良いもの」とするのではなく、状況によっては人々に悪影響を与えうるものとして教育の営みを捉えることができるようになったことが、自分が教育学類で学んだ一番の収穫だったと思います。このような教育学類での学びは、教育を研究する人はもちろん、教員や企業に就職する人にとっても非常に意義のあることだと思います。

細野 裕暉

教育研究科
スクールリーダーシップ開発専攻



中学生の頃から学校の先生になることが夢で、「大学卒業後すぐに高校の先生になるんだろうな」と高校生の頃は漠然と考えていました。そのときは大学院への進学など頭の片隅にもありませんでした。しかし、教育学類

で様々な角度から教育学を学んでいくうちに、教員として働く前に、もっと教育に関する専門的な知識を身につける必要があるのではないかと思うようになり、修士課程の教育研究科への進学を決めました。教員養成系の大学ではなく、教育学類に入学したからこそ、このような進路を考えるようになりました。教育をめぐる諸問題や取り巻く状況を多角的・批判的に捉える態度が養われるのが、教育学類の魅力だと思います。

卒業生の進路

教育学類は2011年3月に第一期の卒業生を送り出しました。前身である人間学類教育学専攻と同じく、社会の様々な分野に進んでいます。

下のグラフは、教育学類の過去5年間の卒業生の進路先を示したものです。「就職」は、「企業・団体」「教員」「公務員」の3つに分けて示してあります。

このグラフからわかることは、大まかな傾向として、「就職」が50%程度、「進学」が30%程度、そして、「その他」が20%程度ということです。「その他」に含まれている学生の多くは、就職や進学の準備をする人たちですが、これらの人たちも次年度あるいは数年の内に、就職あるいは進学を決め、希望する進路先へと進んでいます。

最近の傾向としては、「教員」の中でも小学校教員になる人が増えていることです。また大学院の修士課程へ進学した後で、教員と becoming 人も多くなっています。

大学院進学

大学院進学者の多くは、同じ筑波大学の教育学学位プログラムに進学しています。教育学学位プログラムの前期課程（令和2年度より改組）は、教育基礎科学サブプログラム・次世代学校教育創成サブプログラム・国際教育サブプログラムの3つに分かれており、修了後は小中高の教員や後期課程に進学して研究者を目指していきま

す。その他にも、筑波大学にある他の学位プログラムや他大学の大学院に進学する人もいます。

大学卒業後の主な就職先

〈企業・団体〉

三菱東京UFJ銀行／三井住友銀行
みずほ銀行／常陽銀行／静岡銀行
JR東日本／全日本空輸／東日本高速道路
四国電力／九州電力／山ニガス／日本生命
みずほフィナンシャルグループ／三井物産
住友不動産／しまむらグループ
スバルコンピュータ／第一ゼミナール
湘南ゼミナール／共同通信社／茨城新聞社
読売広告社／ベネッセコーポレーション
トモノカイ／くまざわ書店／明治図書
早川書房 ほか

〈教員〉

東京都／埼玉県／茨城県／千葉県
神奈川県／横浜市／山梨県／新潟県
石川県／愛知県／滋賀県／大阪府／兵庫県
広島県／福岡県／長崎県／鹿児島県 ほか

〈公務員〉

北海道庁／福島県庁／茨城県庁／千葉県庁
港区役所／つくば市役所／文部科学省
茨城県警察本部 ほか

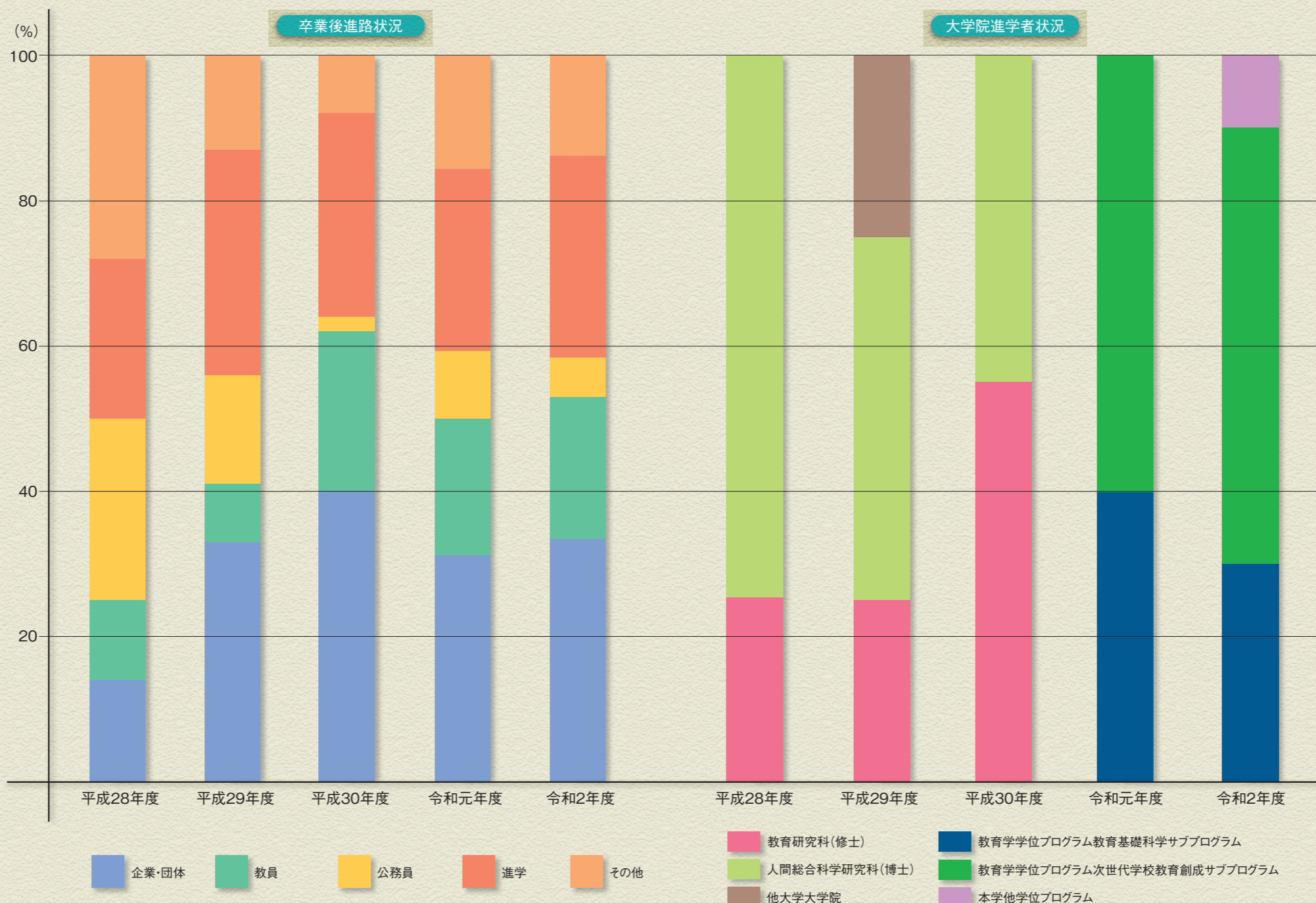
大学院修士課程修了後の主な就職先

〈教員〉

青森県／栃木県／茨城県／埼玉県
東京都／千葉県／山梨県／静岡県
兵庫県／香川県 ほか

〈公務員〉

横浜市役所／文部科学省 ほか



入試の仕組み

入試の仕組み

教育学類の入学定員は35名です。

入学試験には、「一般入試(前期、後期)」「特別入試(推薦入試、国際バカロレア特別入試、私費外国人留学生入試)」の2種類があります。教育学類では个性的で意欲的な学生を求めています。

大学4年間は長いようで、実際にはとても短い4年間です。この4年間に有効に活用してもらうために、教育学類の教員は最大限の支援を惜しみません。しかし、教員がいくら頑張ってみても、当の学生に「やる気」がなければ、その指導・支援も中途半端なもので終わってしまうでしょう。やはり大切なのは、学生自身の「心構え」なのです。このパンフレットのあちこちで、みなさんにエールを送っている在校生・大学院生・卒業生はみな、しっかりと将来を見据え、日々努力している方々です。それは、彼/彼女たちの言葉からもわかります。みなさんも是非先輩のように高い志と大きな希望を持ち、教育学類に入学してきてください。そのような意欲があれば、自ずと、未来への道は開かれるものと思われま。

来年度の4月に、みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

令和4年度入試(コロナウイルス対策のため、変更になる場合があります)

1. 一般入試

募集人員 前期日程(学類選抜) 22名 後期日程 3名
 【総合選抜入学者の2年次受入定員は3名となっています】

試験時期 大学入学共通テスト…1月中旬
 個別学力試験…2月下旬(前期日程)/3月中旬(後期日程)

▽個別学力検査の試験科目 前期日程

- ・外国語(英、独、仏、中から1つを事前選択)
- ・国語(現代文B・古典B)
- ・地理歴史(世界史B、日本史B、地理Bから1科目)
- ・公民(倫理)
- ・数学(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)
- ・理科(物基・物、化基・化、生基・生、地基・地から1科目)

の中から1教科を事前選択

▽後期日程

- ・論述(応答性、論理性等を評価する)

2. 特別入試

① 推薦入試

募集人員 7名
 試験時期 11月下旬
 試験科目 小論文、面接

② 国際バカロレア特別入試

募集人員 若干名
 試験時期 7・8月、11月
 試験科目 書類選考、面接・口述試験

③ 私費外国人留学生入試

募集人員 若干名
 試験時期 2月下旬
 試験科目 小論文、面接

※入試に関する詳しい情報は、筑波大学公式ホームページ(<http://www.tsukuba.ac.jp/>)の【入試情報】をご覧ください。



緊張した新入生

合格発表

入学式

教育実習

教育学類へのアクセス



インターネットでのアクセス

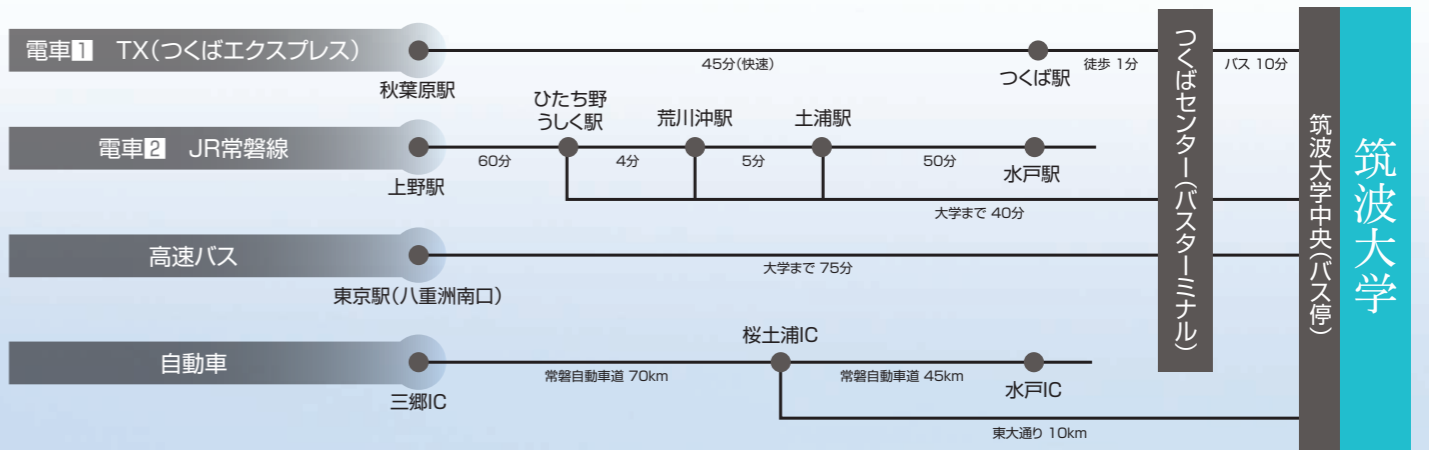
インターネットで教育学類にアクセスしてみてください。
 より詳しく、教育学類のことがわかるはずですよ。

<https://www.education.tsukuba.ac.jp/edu/>

簡単なお問い合わせにはメールでお答えします。
 ただ、答えられない質問もありますのでその点をご了承の上、お問い合わせください。

- 心理学類に関する質問……<http://www.human.tsukuba.ac.jp/psyche/college/>
- 障害科学類に関する質問……<http://www.human.tsukuba.ac.jp/ids/shougai>

筑波大学(人間学群教育学類)までの交通案内



周辺案内





University of Tsukuba

University of Tsukuba

筑波大学



<http://www.human.tsukuba.ac.jp/psychel/college/>

人間学群
School of Human Sciences

心理学類
College of Psychology

伝統 Tradition

何物にも代え難い歴史の蓄積と知的精神の継承

流動 Flow

古い型にとらわれずに新しい形を追い続ける志向性

自由 Freedom

自由な発想と独自の人間観に基づく創造的な研究活動

多様 Variety

真理の追究のために集った多彩な専門家集団

学際 Interdisciplinary

心理学の枠だけでは縛られない視野の広さ

心と行動の
統合的理解をめざして

2022

筑波大学 学群入学試験に関する
お問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課 入試第一係
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
Tel. 029-853-6007
Fax. 029-853-6008

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html>

カリキュラムのコンセプト

1.体系的なカリキュラム

共通科目から個別的な専門科目、そして卒業研究まで、段階的に学ぶことができます。

2.豊富な科目構成

多彩な専門科目が用意され、各自の興味関心に従って、より深く学ぶことができます。

3.多様な心理学的知識の学習

多様な心理学の研究領域を、幅広く偏りなく学びます。

4.新たな知識を「産み出す」ためのメソッド

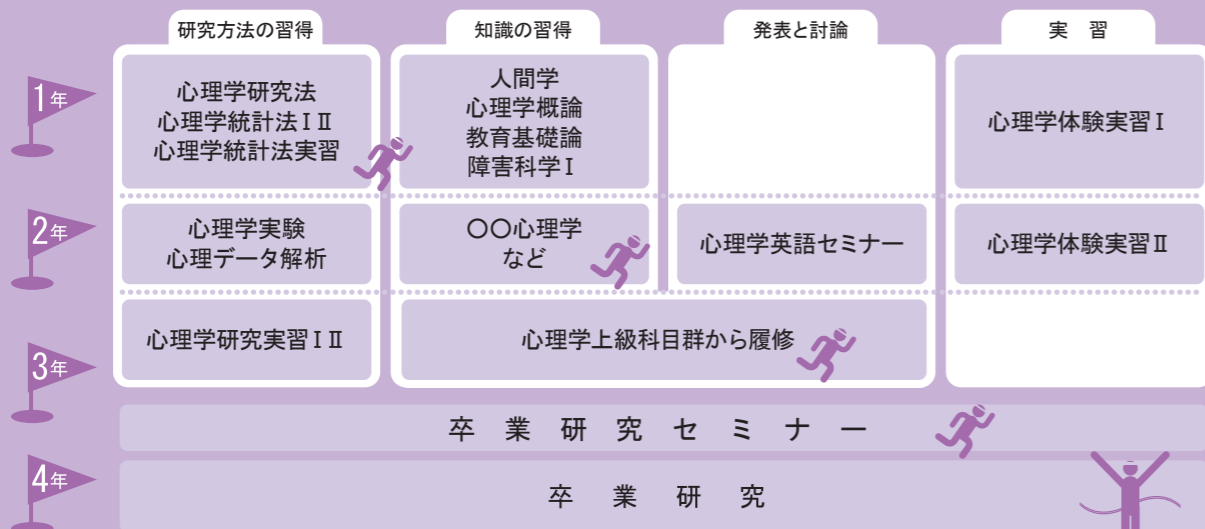
知識を産み出すための方法を講義や実験で学び、ツール(統計、英語)もしっかり身につけます。

5.実践的科目の充実

実践的・実習的な演習科目も用意されており、リアルな学びが得られます。



人間学群心理学類生の一般的なカリキュラムのイメージ



こうなる! 心理学類の4年間

概論を学ぶ 1年生

1年次の春から、心理学の授業が始まるよ。概論では英語のテキストを使って勉強するんだね。大学生って感じ。統計を学んだり、研究法を学んだり、1年次の学習も将来の卒業研究につながっていくんだって。しっかりがんばろう。

実験レポートの 2年生

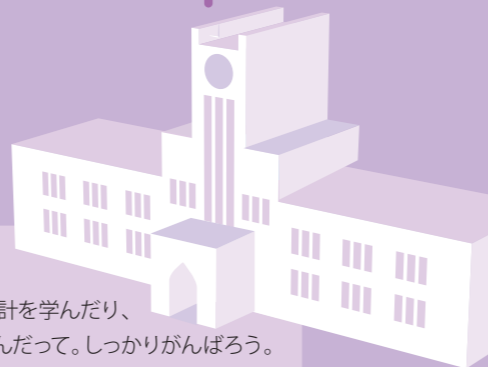
2年次は心理学の実験が始まった。心理学って実験してデータを取って、分析して、レポートを書くんだね。統計の授業で習ったことをどんどん使っていくよ。講義科目も、概論だけではなく、いろいろな〇〇心理学を学べる。少しずつ、心理学に詳しくなっていくのが自分でもわかる。

研究を深める 3年生

3年次は、グループに分かれて、院生の人や先生と一緒に、本格的な研究をする授業が始まる。研究計画から最後の発表までやり終えると、心理学の研究がどんなものか、わかってきた気がする。卒業研究の準備もそろそろ始めよう。

論文を完成させる 4年生

心理学の知識も学んだ、研究のやり方も身につけた、データ分析の技法も使えるようになった、先行研究も読み込んだ。4年間の集大成は自分だけのオリジナルな研究に挑戦すること。就活・公務員試験・院試、進路はそれぞれ違うけど、友だちと支え合って進路と卒論の両方に全力投球するぞ!!



学び方いろいろ



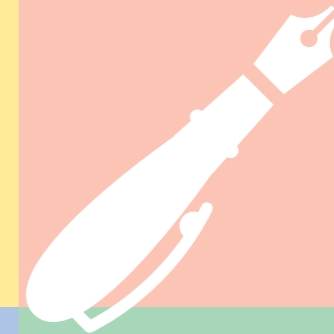
集中講義 心理学類では心理学のほぼ全分野を学べますが、それらに加えて、他大学の先生をお招きして、短期間集中的に行われる授業も開講されます。

図書館 筑波大学には全国有数の開架式図書館があります。東京文科大学や東京教育大学の古い文献もあり、心理学関係の蔵書はとても充実しています。自由に使えるパソコンが100台以上あり、予約するとセミナー室も借りられます。

研究会 教員や大学院生が主催している心理学関係の研究会がいくつもあり、正規の授業では得られない知識や経験を得ることができます。

留学 人間学群の主な協定校として、ドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン、アメリカの南インディアナ大学、ニューヨーク州立大学・オスウェゴ校、大韓民国の大邱大学校、台湾の国立彰化師範大学などがあります。海外の大学で学ぶための方法はいろいろあります。あなたの目的に合ったプログラムを見つけてください。

資格と免許



大学は専門学校と違って卒業時に様々な資格が取れるわけではありません。しかし、所定の単位を履修すれば取得できる免許や資格もあります。

心理学類は、「公認心理師」受験資格のためのカリキュラム体制を整えています。また、心理学類で取得可能な資格として「認定心理士」があります。これは日本心理学会の認定資格で、心理学類の科目をきちんと履修し申請すれば取得できます。なお「臨床心理士」、「学校心理士」、「臨床発達心理士」など心理関係の多くの資格を取るためには、大学院修士課程に進学する必要があります。中学や高校の教育職員免許状(いわゆる教員免許)については、教職課程の必要科目等を履修することにより、高等学校教諭一種免許状(公民)が取得可能です。他の学群・学類の授業を併せて履修することが必要になります。教員免許の他にも、社会教育主事、学芸員、図書館司書などの資格も取得可能です。

就職



心理学類の就職状況は多様なものです。就活して企業に就職する人もいれば、試験を受けて公務員や教員になる人もいます。また、4年間の大学生活のあと、進学や留学をして、そのあとで就職する人たちもいます。また、フリーランスの職を選んだ学生も、就職した後20代のうちに起業した卒業生もいました。

心理学の専門職となると、国家公務員・地方公務員の心理職、家庭裁判所調査官などがあります。

企業にも、公務員にも、教員にも、心理学を学んだ多くの卒業生がいますので、みなさんも自分の好きな道を選んでみてください。

心理学類の進学状況ですが、卒業生の30~40%くらいの人たちが、大学院へ進学しています。なかでも、筑波大学大学院人間総合科学術院への進学が多いです。博士前期課程では、人間総合科学研究群の心理学学位プログラムとニューロサイエンス学位プログラムが、心理学に関連する教育分野を置いています。筑波大学の他の学問分野の大学院に進学する人もいます。また、自分の研究上の必要性から、他大学の大学院に進学したり、外国の大学院を希望する人もいます。

進学



小川 園子

Ogawa Sonoko

- ① 神経科学・行動神経内分泌学
- ② 行動神経科学実験実習
- ③ 情動・社会行動をはじめとする様々な行動の発現が、脳に作用するホルモンの働きによってどのように制御・調節されているかについて研究しています。

仲田 真理子

Nakata Mariko

- ① 神経科学・行動神経内分泌学
- ② 心理学実験・心理学研究実習
- ③ マウスをモデルとして、集団の形成をはじめとした情動・社会行動が脳内でどのようにコントロールされているかを研究しています。

山田 一夫

Yamada Kazuo

- ① 行動神経科学、行動神経内分泌学
- ② 神経・生理心理学
- ③ 動物を用いて、学習・記憶の脳内メカニズム、特に忘却に関する研究に取り組んでいます。

綾部 早穂

Ayabe Saho

- ① 感覚知覚・認知心理学、嗅覚
- ② 知覚・認知心理学
- ③ 意識的・無意識的な経験によって情報の認知の仕方がどのように変わるのかについて興味があります。特にニオイの認知メカニズムの研究を行っています。

加藤 克紀

Kato Katsunori

- ① 動物心理学
- ② 学習・言語心理学
- ③ 若齢期における社会的環境と社会性の発達との関係、空間構造と情動行動との関係などに興味をもって研究しています。

山口 一大

Yamaguchi Kazuhiro

- ① 計量心理学、教育測定学、ベイズ統計学
- ② 心理学統計法 I・II、心理学統計法実習
- ③ 認知診断モデル・診断分類モデルの諸問題の解決、ベイズ統計学の近似推論法の教育測定学への応用、心理学研究における統計学の役割についての考察

高橋 阿貴

Takahashi Aki

- ① 行動神経科学、行動遺伝学
- ② 心理学上級(行動神経科学)
- ③ 社会行動や情動に関わる生物学的基盤の研究をマウスを用いて行っています。

原田 悦子

Harada Etsuko

- ① 認知心理学、認知工学、認知科学
- ② 知覚・認知心理学、心理学上級(認知心理学)
- ③ 実験的基礎研究では「認知的高齢化」ならびに「人の学習、知識の獲得」、フィールド研究では、人にとっての「使いやすさ」研究を行っています。

千島 雄太

Chishima Yuta

- ① 教育心理学
- ② 感情・人格心理学
- ③ 時間的展望を大きなテーマとして、人が過去・現在・未来の自己をどのように認識しているかに焦点を当てて研究しています。

藤 桂

Fuji Kei

- ① 社会心理学
- ② 社会・集団・家族心理学
- ③ インターネット上での人々の振舞いや、メディアにまつわる様々な社会問題を研究しています。

岡田 昌毅

Okada Masaki

- ① キャリア心理学、産業・組織心理学
- ② 産業・組織心理学
- ③ キャリア発達に関連する理論とビジネス経験を融合し、個と組織のあり方について考えています。

登藤 直弥

Todo Naoya

- ① 教育測定学、心理統計学、統計学
- ② 心理学統計法(I、II、実習)、心理データ解析
- ③ テストデータを中心に、心理学の研究で得られるデータの解析方法全般に興味を持っています。

外山 美樹

Toyama Miki

- ① 教育心理学
- ② 教育・学校心理学、心理学上級(教育心理学)
- ③ 教室環境(教師、友人など)が子どもに及ぼす影響や学習の動機づけに興味をもって研究しています。

川上 直秋

Kawakami Naoaki

- ① 社会心理学
- ② 社会・集団・家族心理学
- ③ 主に、実験的な手法を用いて、社会的情報(顔など)の無意識的な認知(印象形成など)について研究しています。

濱口 佳和

Hamaguchi Yoshikazu

- ①発達臨床心理学、
発達心理学
- ②心理学上級
(発達臨床心理学演習)
- ③児童・青年の社会的情報処理、攻撃性、主張性。親の養育スキルと育児ストレスなどについて研究をすすめています。

大川 一郎

Okawa Ichiro

- ①老年心理学、臨床心理学
- ②心理学上級(中高年の心理学)
- ③ケアを必要とする高齢者への心理的援助や知的能力維持にかかわる日常生活上の要因などに関心をもっています。

佐藤 有耕

Satoh Yuhkoh

- ①青年心理学
- ②青年心理学
- ③思春期・青年期とはどのような時期なのかを自己、感情、友人関係などからとらえたいと思っています。

松田 壮一郎

Matsuda Soichiro

- ①行動デザイン、応用行動分析学、
発達心理学、自閉スペクトラム症
- ②福祉心理学、心理学上級(行動デザイン)
- ③「行動変容の技術を用いて、人々がより幸せを感じられるように！」を目標にして、人工知能研究者と連携をしながら、最新の行動イメージング技術を用いた研究をしています。

安藤 智子

Ando Satoko

- ①発達臨床心理学
- ②発達心理学、
心理学上級(発達臨床心理学)
- ③親と子のメンタルヘルス、アタッチメントなどに関する研究をしています。

生田 目光

Namatame Hikari

- ①臨床心理学
- ②公認心理師の職責
- ③ポジティブ心理学の観点から、ボディイメージや食行動に関する研究を行っています。

菅原 大地

Sugawara Daichi

- ①臨床心理学、感情心理学、
ポジティブ心理学
- ②感情・人格心理学
- ③ポジティブ感情の機能に興味があり、最近では精神疾患との関連について研究しています。

藤生 英行

Fujiu Hideyuki

- ①カウンセリング心理学
- ②心理演習
- ③カウンセリング訓練法、外在化・内在化問題行動に共通するリスク要因・保護要因、症状悪化に關与する認知的脆弱性の3本柱の研究を進めています。

杉江 征

Sugie Masashi

- ①臨床心理学
- ②心理学上級(臨床心理学演習)
- ③自律訓練法の基礎的・臨床的研究、大学生と学生相談、心理臨床・教育臨床の実践研究などです。

大塚 泰正

Otsuka Yasumasa

- ①臨床心理学
- ②健康・医療心理学
- ③働く人たちのメンタルヘルスをよくしたり、いきいき職業生活を送れたりするようになるための研究と実践を行っています。

沢宮 容子

Sawamiya Yoko

- ①臨床心理学
- ②臨床心理学概論
- ③認知行動療法に関する基礎研究と臨床応用、およびポジティブ心理学の臨床実践への応用に興味を持っています。

原田 隆之

Harada Takayuki

- ①臨床心理学、犯罪心理学
- ②司法・犯罪心理学
- ③臨床心理学、なかでも非行・犯罪臨床やアディクション臨床が専門です。エビデンス・ベーストをキーワードに、非行少年や犯罪者、アディクション患者に対する有効な治療の開発に関する研究を行っています。

青木 佐奈枝

Aoki Sanae

- ①臨床心理学
- ②心理学的支援法、
心理学的アセスメント
- ③心理査定 of 臨床活用、医療における心理支援、特に心的外傷と解離に関する領域に興味を持っています。

飯田 順子

Iida Junko

- ①学校心理学
- ②教育・学校心理学、
心理学上級(学校心理学)
- ③小中高校での学校心理学・スクールカウンセリングの実践や研究を行ってきました。学校心理学における海外との比較文化的研究にも、興味を持っています。

多様な学問の融合から、新たな学問へ そして社会に貢献する人材育成へ

教育目標

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

コンセプト

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

特徴

- ・学生の関心や目標に応じた**3つの履修モデル**
- ・**特別支援学校教員免許状**では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）に関する免許の取得が可能
- ・**社会福祉士国家試験受験資格**の取得が可能
- ・**教職免許** 特別支援学校／高校（福祉）／その他、中学校・高校の教科

目次

障害科学類の教育目標	27
障害科学類のコンセプトと特徴	27
学類長あいさつ	28
障害科学の歩み	28
3つの履修モデルと取得可能資格	29
4年間の履修の進め方	30
教員紹介	31
研究室紹介	32
授業紹介、海外留学、研修	33
障害科学類生による学生生活、学類紹介	35
卒業後の進路	37
進路実績	37
附属学校・関連組織	39
入試情報	40

学類長あいさつ



岡 典子

障害科学類には、ふたつの目的があります。

ひとつは、障害のある成人や子どもたちの日常生活や学校教育、社会参加等を支援できる専門家を育成することです。

もうひとつは、障害に関する知識をきっかけとして、そもそも人間とは何か、社会とはどうあるべきかといった普遍的な思考をもち、行動できる人材を育てることです。わたしたちの社会は、さまざまな特性や個性をもつ人びとによって成り立っています。障害もそうした特性のひとつです。障害のある状態は人間にさまざまな制約をもたらしますが、そうした制約を軽減し、乗り越えるために必要な知識や技術を特別支援教育学、心理学、生理学、福祉学、社会学などの複合的学問体系から追究するのが障害科学です。

障害は決して特別な現象ではありません。世界保健機関（WHO）は、障害とはすべての人間がもつ健康状態の連続体であると定めています。障害のある人が幸福の追求に困難を感じる社会が、じつは万人にとっても過酷な社会であることも、人類の長い歴史からわかっています。だからこそ、障害について学び、考えることは、単なる知識の深化や技術の獲得にとどまらず、人間と社会の本質を探究し、すべての人が共に生きる社会を志向するための羅針盤となるのです。

人類と社会に貢献する人材を育てる障害科学類で、ともに住みやすい社会をつくる学問を探究しませんか。

障害科学の歩み

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。



カリキュラムの特徴

3つの履修モデルと取得可能資格

障害科学類では、学修の参考のためにいくつかの履修モデルを示しています。履修モデルは、その通りに授業をうけなければならないものではありません。ただし、資格と関係する履修モデルは、必要科目が過不足なく含まれていますので、モデルが基準になるでしょう。履修モデルを基に、学ぶ人の希望と意欲に沿った学修計画を立て、自主的に学ぶこととなります。

障害科学履修モデル

障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。



特別支援教育学履修モデル

わが国における特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指すものです。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある幼児児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関わる広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）すべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



社会福祉学履修モデル

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



1年 障害科学履修モデル 4年

共通科目 人間学、体育、外国語、情報	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論、社会福祉原論など	専門科目 自閉症スペクトラム障害臨床実習、重複障害の理解と支援、聴覚障害とリテラシー、高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目 障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習		
関連科目 心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど		

1年 特別支援教育学履修モデル 4年

共通科目 人間学、体育、外国語、情報	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論、社会福祉原論など	専門科目 特別支援学校教諭免許取得に必要な専門科目、視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、運動障害教育学、健康障害の指導法、知的障害学校教育論、特別支援教育実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目 障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習		
関連科目 心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど、中学校・高等学校教諭免許（教科）取得のための学群内外の科目の履修など		

1年 社会福祉学履修モデル 4年

共通科目 人間学、体育、外国語、情報	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論、社会福祉原論など	専門科目 社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、相談援助の理論と方法、相談援助の基礎と専門職、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目 障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習		
関連科目 心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど		

障害科学を学ぶモチベーションを高め、学びの基礎を整える

1年
障害科学の基本的な原理を学び、実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、障害科学を構成する専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解できるようにします。

基礎的能力を身に付け、将来の進路を考える

2年
各専門分野の基礎を学び、障害科学の方法を知ること、自らの修学の到達目標や卒業後の進路を志向します。

障害科学の研究・基礎的実践技術の習得

3~4年
さまざまな演習や実践を通じて、障害科学の研究手法の基礎を習得したり、自分の選んだ進路に応じ、特別支援教育、社会福祉、発達臨床などに関する実践能力の基礎を身に付けます。また、こうした研究・実践技術に関するカリキュラムは、大学院人間総合科学研究群（前期課程）へ進学し、6年間で習得することを想定して作られています。是非、大学院進学を志してください。

障害科学全般にわたる基礎的能力の養成
4年間の履修の進め方

教員紹介

多様な障害種別、研究手法を網羅するスタッフ陣



研究室紹介

専門家、研究者としてのキャリアにつながる充実した研究環境

視覚障害学

- 柿澤 敏文 弱視児(者)の視覚特性と ICT、視覚障害原因、アジア・アフリカの視覚障害
- 小林 秀之 視覚障害児の学習活動に対する教育的支援
- 佐島 毅 視覚障害学、重複障害児の心理と教育
- 和田 恒彦 理療(鍼、灸、あん摩マッサージ指圧)科教育、スポーツ障害、障害者スポーツ
- 緒方 昭広 ペインクリニック領域の鍼灸・手技療法

- 徳竹 忠司 視覚障害者への理療技術指導法・東洋医学的物理療法(理療)の生体反応
- 濱田 淳 理療教育に関する研究、泌尿生殖器系疾患に対する鍼治療
- 宮内 久絵 視覚障害教育、インクルーシブ教育
- ラムチャネ・カマル 諸外国における障害と教育、雇用の連関に関する研究

聴覚障害学

- 鄭 仁豪 聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究
- 原島 恒夫 聴覚障害児(者)の聴覚情報処理、早期教育に関する臨床発達心理および環境論的アプローチ

- 左藤 敦子 聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究

知的・発達・行動障害学

- 柘植 雅義 特別支援教育推進に関する教育学的・行政学的研究 / 学校における指導・授業に関する教育学的・心理学的研究
- 熊谷 恵子 学習障害児の学習支援(算数困難等)に関する研究、発達障害児者の感覚過敏に関する研究
- 野呂 文行 発達障害児の行動心理学的研究
- 岡崎 慎治 知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究
- 小島 道生 知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウン症児者の発達支援に関する研究

- 米田 宏樹 知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究
- 佐々木 銀河 大学における障害学生支援、発達障害児者に対する支援技術、スタッフトレーニング・マネジメント
- 石塚 祐香 発達障害児に対する応用行動分析学に基づくコミュニケーション発達支援

運動・健康・高齢障害学

- 竹田 一則 障害児の医学・生理学・心理学的研究、障害学生支援に関する研究
- 川間 健之介 運動障害児者の心理、指導法の研究

- 山田 実 加齢に伴う身体機能低下の予防(介護予防)に関する研究

音声・言語障害学

- 宮本 昌子 小児の言語発達障害に関する研究、吃音、cluttering など発話の非流暢性障害に関する研究

- 三盃 亜美 先天性・後天性の読み書き障害に関する認知神経心理学的研究

障害原理論

- 岡 典子 障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究

障害福祉学

- 小澤 温 障害者に対するケアマネジメントとその評価に関する研究
- 八重田 淳 職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究
- 山中 克夫 認知症の人のための心理・社会的アプローチ
- 名川 勝 障害者の地域生活支援と権利擁護、知的障害者等の意思決定支援、大学における障害学生支援

- 森地 徹 当事者の視点を生かした障害者の地域生活支援に関する研究
- 大村 美保 障害者の雇用・就労障害者の雇用・就労、所得保障、および地域生活支援
- 河野 禎之 認知症や LGBTQ を含む多様な属性の人と社会に関する心理・社会的研究、ダイバーシティ&インクルージョン
- 矢部 愛子 聴覚障害者のコミュニケーション情報保障、ろう学・障害学の混合手法による研究

柘植研究室



私たちの研究室では、知的障害のない発達障害、知的障害、行動障害、それらを重複する場合に関心があり、その理解や指導・支援に関する研究を行っています。また、より広く、特別支援教育やインクルーシブ教育、制度やシステム、障害のない人への対応、保護者への支援、一般市民の理解啓発等、「周りの環境」に関する研究も盛んです。研究対象は、就学前から学童期、青年期、成人期まで様々で、海外の学校や施設をフィールドにした研究や国際比較研究も。研究方法は、事例研究、調査研究、実験研究、質的研究、文献研究等様々。そして、研究成果が如何に実践の場で活用できるか(Evidence-Based Practice and Policy)という点を大切にしています。研究室の構成員は、学類(学部)、大学院博士課程の前期・後期、研究生、研修生と多彩で、年齢も国籍も様々。研究室のセミナーは、毎週全員が一堂に会して行い、個別の研究相談もしています。研究室は、お互いを認め合い寄り添い合う雰囲気でもち溢れ、その上で、研究は一生懸命にきちんと！構成員の人数も多いことから、仲間同士の教え合いや研究上の悩み事相談などもなされています。

大村研究室



私たちの研究室では、障害のある人の地域生活支援に関する研究を行っています。具体的には、障害者の雇用・就労に関する研究や、障害者虐待防止における基礎自治体の体制整備に関する研究、非行・犯罪行為のある障害者への支援などが最近のテーマです。このような、社会における平等、参加、貧困、社会的排除、虐待、地域での孤立といった現代社会における諸課題の多くは、社会福祉学が対象としています。週1回開催される研究会では、それぞれの知識や能力を持ち寄り、よりよい研究に洗練できるよう、質問や指摘、意見交換を活発に行っています。また、見学・訪問、研修会への参加、経験のある現場職員との意見交換など、実践現場とのつながりを大事にしています。人の生活や社会は複雑であり、標的を明確にして問題構成を浮かび上がらせるのは決して簡単なことではありませんが、苦勞してまとめた研究成果をもとにして新たな政策展開が行われるときには、非常に大きなやりがいと達成感を感じます。一つひとつの研究はささやかなものかもしれませんが、障害のある人たちやその支援者・機関に対して研究を通じた貢献ができるよう、日々の研究活動を行っています。

岡崎研究室



私たちの研究室では、注意欠如多動症(ADHD)などの発達障害のあるお子さんの認知発達とその評価の方法、支援の方法について研究を行っています。大学に相談に来られるお子さん等にご協力頂き、認知やその発達にどのような特徴があるのかを調べるために、検査やテストを用いたり、一緒に学習や遊びを通じた支援について考えたりするとともに、その開発にかかわるような基礎的な実験を行ったりもしています。また、行動からではわかりにくい認知の働きを調べるために、脳の電氣的活動を測定(脳波)したり、脳血流の測定をしたりもしています。このように、障害のある人々に関する基礎研究と応用研究を通して、知的発達や認知発達の特徴や独特さを知り、理解や支援につながるような活動を行っているのが研究室の特徴といえるでしょう。学生の皆さんも基礎だけ、応用だけではなく、それぞれの研究活動に関与しながらご自分の研究を進めています。表面的には特徴や困難さがわかりにくい発達障害の理解や支援に興味がある方は、ぜひ障害科学類でその学びを深めていただきたいと思います。

授業紹介

知的障害学校教育論（指導法）

4年 岸良隼人



私は本学類で「特別支援教育学モデル」を選択し、特別支援学校教育論の免許資格の取得を見据えた履修計画のもとに学習等を進めています。このコースを経て、障害科学類の授業および他学類の授業に臨み、教員に求められる幅広い領域の知識・理解を深めることを目標としています。例えば2年次の秋学期に受講した「知的障害学校教育論（指導法）」では、学習指導要領解説やVTRを活用した授業を通して、知的障害教育に関する教育課程や授業実践などについて学習し、基礎的な概念から教育現場等の少々込み入った話まで、様々な知見を得ることができました。米田先生のユーモアに溢れる巧みな授業は、その豊富な情報量で圧倒されるものの、課題等へ取り組む中で授業内容を反芻することで、効果的に学習を進めることができます。インクルーシブ教育の目指すべきかたちについて多様な考え方が錯綜する中で、「本当に必要な共生とは何か」について考える、よいきっかけとなった授業です。

ソーシャルワーク演習 I

4年 青山奈央



私は社会福祉士の資格を取得したいと現在考えています。そのため勉強をする中で、ソーシャルワークに必要とされる理念や技術が、実際にはどのように用いられているのかを知りたいと考え、この授業を受講しました。この授業では、ソーシャルワーカーの支援における考え方、面接や記録の技術を、ディスカッションやグループワークを通して学びます。自分で学んだ技術を体感できるのはもちろん、先生方から実際に仕事をする際のポイントについてのお話を聞くことや、自分の思考の傾向について改めて考える機会とすることもできます。ソーシャルワークで用いる考え方や技法というのは、人と人の中で用いられるものであるだけに、座学だけでは理解が難しい部分というのがあります。そのため、実際に技術を使いながら学んだり、自らの価値観について考えることのできるこの授業は、ソーシャルワークについて学ぶ上で、大変有意義な授業だと思います。

相談援助の理論と方法 I

3年 片庭希海



私は社会福祉士の資格を取得して福祉に携わる仕事に就くことを目指しており、その中で相談援助の理論と方法 I という授業を受講しました。この授業では「ソーシャルワークとは何か」ということがテーマの1つとして設けられており、ソーシャルワーカーとして支援するとはどのようなことなのか、といった根本的なことについてじっくり考えることができます。特に、個人だけでなく家族やグループ、地域を対象としたソーシャルワークもあるという学びは、ソーシャルワークに関する自身の考えを深めるきっかけになったと感じています。また、講義形式の授業ではあるものの、グループワークが多くあり、事例などについて検討しながら他の受講生と考えを共有することができました。社会福祉学履修モデルの授業では、その他にもグループワークなどを通して他の学生と話し合う機会が多くあり、様々な考え方や価値観に触れて刺激を受けることができる点が魅力だと思います。

卒業研究

2020年度卒 郡司和香



私は大学4年間、障害科学類で障害5領域について様々な授業や実習を受け、自分自身の興味を広げていく中で、特に視覚障害に興味を持つようになりました。卒業研究は約1年間かけて取り組んでいく研究であるため、研究室選びをする際も、興味を持った研究室に何度も見学に行き、先生方とたくさん相談しながら慎重に決めました。その際に、どの研究室の先生も、私がどのようなことに興味があるのかということについて熱心に話を聞いてくださり、多くのアドバイスをいただくことができました。そのように研究室訪問を重ね、視覚障害を専門としている柿澤敏文先生のもとで、視覚障害女性がメイクをする上でどのような困難を抱えているのかということについての実態調査を行いました。卒業研究を通して、対象者にアポをとり日程調整をしてインタビュー調査を行うという貴重な経験を行うことができました。実際に視覚障害のある方々とお話を伺うことができたことも私の中で大きな財産となったように思います。卒業研究を行うにあたって、最初のうちは、漠然と視覚障害について研究ができればいい、という考えがあったくらいで、先輩方のように論文を執筆することができるのか、不安を抱えていました。しかし、研究の進め方や分析方法について行き詰ってしまった時や不安があったときは、その都度、指導教員の先生や同じ研究室に所属する先輩方、同期の友人と協力し合いながら研究を進め、意義のある経験となりました。卒業論文が完成した時の達成感は忘れられません。障害科学類は教員の研究分野も幅広く、きっと皆さんのやりたい研究ができると思います。是非、皆さんも障害科学類で自分の興味の幅を広げてくれるような研究をしましょう！



海外留学、研修

障害科学類では、筑波大学や人間学群で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることが出来る
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。
詳しくはHP (<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html>) をご覧ください。
これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。最近では中国、韓国、ロシア、台湾の大学を訪問しました。

障害者教育基礎理論 I・II

2年 加藤悠介



私は現在障害科学履修モデルを選択し、障害に関する知識や技能を習得し自らの糧とするために日々研鑽を積んでいます。1年次の秋学期ABモジュールに受講した『障害者教育基礎理論』はIとIIに分かれています。

Iでは、障害のある子どもへの教育的アプローチが長い歴史の中でどのように始まり、発展していったのかを世界と日本という2つの側面から概観します。障害の種類によって、教育が始まった時期・方法が発展した時期が大きく異なることを知ることができます。IIでは、主に戦後日本の障害児教育の発展について学んでいきます。通級による指導制度やインクルーシブ教育システムについても多く触れます。どちらの授業も、多くの資料や論文を参考に進められますが、映像を参照することもありました。受講を通して、教育と時代背景・人々のかかわり方について深く考えることができます。担当のお二人の先生も、ユーモラスかつ丁寧に教えてくださいました。授業を受ける中で、さまざまな意見や考えが生まれてくると思います。それをきちんと言葉にし、まとめることが大切です。障害に興味のあるみなさん、私たちと一緒にもっと障害を知り、学びを深めてみませんか？

特別支援教育実習

4年 宇梶優



3年次に筑波大学附属視覚特別支援学校の小学部に3週間の教育実習を行い、私は自立活動という教科を担当させていただきました。教育実習では自分が担当する授業だけでなく、他の先生方の授業の参観、学校行事への参加など様々なことを経験できました。特に、1日中児童とともに過ごし、授業や生活場面での児童の様子や先生方の指導の様子を間近で見ることができ、そして実際に関わることができる、ということは大学で受ける講義だけではなかなか得られない貴重な機会であったと思います。この実習は不安なことや失敗もありましたが、私自身にとって多くの学びがあるものとなりました。視覚障害について実感を持った知識を得ることができただけでなく、自分の障害に対する認識や理解についてなど自分自身の内面的な気づきも多く得られ、これから自分がどのように教育に携わっていきたいか、ということを具体的に考える素晴らしい機会となりました。この特別支援教育実習では、5つある筑波大学の附属特別支援学校から1校選択し、教育実習を行います。実習を通じ、それぞれの学校で様々な経験や学びを得られるはずで、皆さんにお会いできることを心待ちにしております。応援しています！

アメリカ・オハイオ州立大学短期研修

4年 山本響平



2年次にアメリカのオハイオ州立大学で行われた短期研修に参加しました。特別支援学校や研究施設の見学、大学での講義などを通してアメリカの特別支援教育や福祉について学びました。私は普段、大学で特別支援教育を学んでいますが、アメリカの特別支援教育について知り、日本と比較する中で問題意識が生まれ、学びに対する意欲が高めることができました。特に印象的だったのは特別支援学校の見学でした。教員以外に理学療法士、作業療法士といった様々な専門職が学校に勤務しており、コラボレートしながら教育が展開されていることを知り、感銘を受けました。自由時間には現地の学生さんたちの案内で市内をまわり、アクセシビリティの状況や健常者の障害のある人への態度など、実際に現地に行かなければわからない様々な発見をすることができましたし、アメリカの文化に思う存分触れることができました。アメリカの特別支援教育について知りたい、英語力の向上、とにかく海外に行きたい…どんな目的であっても、確実に刺激的な体験ができます。高い英語力がなくても大丈夫なように様々なサポートしてくれるのもこのプログラムの特徴です。ぜひ参加してみてください！

人間学群国際化プロジェクト

4年 羽田野航太



私は2018年12月に、人間学群国際化プロジェクトというプログラムで台湾の国立嘉義大学に行きました。現地では、大学生との交流や、附属の小中学校への授業見学をしました。特に授業見学では、台湾と日本の教育課程の違いを直接目にするのができ、良い経験となりました。実習内容は、主に教育学類の内容で、障害科学とは分野が少し異なるところがありましたが、教育学は特別支援教育に密接な関係があります。特別支援学校の教員を目指している私にとって、海外の教育現場を見られたことは大変貴重な経験になりました。その他にも、昼休みに昼寝をすることなど、文化の違いも体験できました。海外への渡航は、勉強はもちろん、現地の文化、風土、食べ物に直接触れるよい機会です(特に、台湾の食事は最高です!)。筑波大学には、この他にも、交換留学や長期留学など、海外に行ける環境が整っています。海外に行きたいけれど不安や迷いがあるそのあなた、筑波大学の制度を活用して海外に飛び出してみませんか？

講義と実践の双方から、広く、深い学びを

3年 吉米地柚季



全国で唯一の障害科学類を有する筑波大学では、専門的な講義と同時に、障害学生支援や附属特別支援学校との関わりからも多くを学ぶことができます。私もピア・チューターとして情報支援に携わったり、附属特別支援学校の生徒に大学を案内する活動に参加したりしています。また、所属する手話サークルとスポーツ支援サークルの活動を通じ、筑波技術大学の学生や知的障害のある青年との交流も楽しんでいます。放課後等デイサービスやヘルパーのアルバイト、学習支援団体でのボランティアも始めました。様々な活動に挑戦するなかで、大学での講義と実際の経験の双方から学びを深められ、日々充実しています。大学内外にこうした環境が整っている点、ネットワークによって多様な活動に参加できる点も障害科学類の魅力だと思います。また、総合大学である筑波大学では、他学類の授業の履修や学生との交流も容易です。私も国際系学生団体に所属し、異分野の仲間との活動から、新たな知識を得ると共に、途上国の障害者支援について視野を広げることができました。講義と実践の双方から広く・深く学べる障害科学類と一緒に様々な挑戦をしませんか？

やりたいことが実現できる学び

4年 浅子綾美



私は現在、小学校教諭と特別支援学校教諭の2つの教員免許取得を目指しています。入学当初は社会福祉士を目指していたのですが、障害科学類の講義を受け、子どもたちが楽しく授業を受けている様子や先生方の「障害」に対する思いを目の当たりにし、教員への道を選ぼうと決めました。障害科学類では、特別支援学校の教師を目指すこと、社会福祉士を目指すこと、そのどちらもが実現可能です。自分のやりたいこと、将来の夢は何かを考え、真っ直ぐに進めば必ず実りある学びができると思います。初等の授業でも特支の授業でも、子どもたちの様子を何う度にキラキラした笑顔が見れます。履修モデルを変えるにあたり、多くのことに悩み、何度も考え直しましたが、周りにいる友人や先生方に相談を重ね、教職の道を選べたことは後悔していません。障害のある子どもたちのそばで自分にできることをしたいと考えていた私にとって、現在進行形で取り組んでいる学びのどれもが充分すぎるくらいに素敵なんです。障害科学類では自分のやりたいことが実現できる学びを得られると思っています。みなさんにお会いできること、楽しみにしています。充実した大学生活を送ってください！

英語で積極的にディスカッションする授業 「Current Topics in disability Sciences」

2年 Lam Yan Tung



Current Topics in disability Sciencesの授業では、インクルーシブ教育の概念や意義について触れ、日本における障害教育福祉を踏まえ、海外の状況と比較しながら学びます。この授業は主に英語で行い、先生をはじめとして多くの留学生がいるため、この授業ならではの文化的背景の異なる環境で、互いの意見を自由に交わす貴重な時間だと考えます。このような異文化ディスカッションを通して、多様な価値観に触れて自身の先入観を問い直し、視野を広げる機会だと思います。今年度は新型コロナウイルスの影響により、対面授業に代わるリアルタイムのZoomディスカッション及びオンデマンド型の授業を併せたハイブリッドの形で授業を実施しました。最初は「英語でどう言えばいいのかわからない」、「人前で英語で発表するのは無理」など、英語に不安を感じる人が多いと思いますが、英語は話せば話すほど上達するため、次第に英語で自分の考えが伝えられるようになっていきます。授業中には間違いに怯えず、自信を持って積極的に英語でディスカッションを進めてみてください！応援しています！

充実した学びを仲間とともに

3年 鶴田絢子



皆さんこんにちは！障害科学類は、障害に関する様々な学問を専門とする多くの先生方がいらっしゃるため、障害を中心として、教育、福祉など様々な方面からアプローチできる環境が整い、さらに興味があることを深めて専門的に学ぶことができるユニークな学類です。私は特別支援教育を中心に学んでいますが、各領域について基礎から専門まで学ぶ講義はもちろんのこと、筑波大学にある5校の附属特別支援学校の先生方から学校での実践を踏まえた講義も受けています。各領域の類似点、相違点など多くの気づきがあり、充実しています。また、ユニークな学類であるためか、全国各地から仲間が集まります。各々に考えがあり、広くアンテナを張っている人が多いです。仲間から刺激を受け、時には議論をすることも。このような仲間との出会いがあることも障害科学類の良さであると思っています。皆さんも障害科学類で学んでみませんか？キャンパスのどこかでお会いできることを楽しみにしています。

障害科学類生による 学生生活、学類紹介



学生生活と部活動

4年 深澤陸



私は現在体育会陸上競技部に所属し、箱根駅伝を目指しています。練習は朝を含めて週6日あり、私にとって大学生活の大半を占めています。1年時は必修の授業が多く6限以降1人で練習することもあり、授業との両立に苦戦する時もありました。怪我で順調に練習できず思い悩むことも多かったのですが、自己ベストを出した時やチームが箱根駅伝の出場を決めた時など、部活を続けて良かったと思える瞬間もありました。時々授業を受けていると、授業内容と競技との結びつきを感じる時があります。私は教職を履修している関係で、特別支援教育の授業も履修しましたが、特別支援教育では生徒の能力に合わせた段階的な指導が重視されます。これは競技に置き換えた場合、自己の現状と課題を把握し、それに向けた段階的な練習をすることが何よりも大切だと感じました。大学生活は高校の時と違い、自己の裁量が大きくなると思います。しかし、自分のやりたいことを明確にして時間を使えば、障害科学類でも体育会の部活動で頑張ることは可能です。また授業で学んだことを自己の生活に繋げて考えることもできると思います。両立することは人それぞれですが、みなさんもぜひ入学してやりたいこととしっかり向き合い、充実した学生生活を送りませんか？

自分たちの可能性に気づく学生生活

2年 増村裕



私は2020年度入学生で、遊びも勉強も思う存分できる筑波大学での生活を楽しみにしていました。そんな中、新型コロナウイルスの影響で入学式は中止になり、授業もオンラインになりました。入学式は大学生としての象徴的な出来事です。中止されたことで、気持ちが置いて行かれたような状態になり、私は、クラスの仲間数人と、入学式を自分たちでつくりたいと考えました。ただ、大学に入っただけのことだったので自分たちがどのように動いたらいいのか、何もわからない状態でした。そんな中、T-ACTという学内の組織を知り、T-ACTの先生方からまず何をしたらいいのか、どのようにチームを運営していくかなどを教えてくださいました。筑波大学には、自分たちが企画のプランナーになったり、オーガナイザーになったり、実際にそれを運用するボランティアになったり等、主体的に活動できる環境が整っています。自ら体験し、自分たちの可能性に気づく、そんなキャンパスライフ、一緒に送ってませんか。

やりたいことが出来る環境

3年 高岡杏



私は重度の運動障害を持っていて、授業は運動障害支援チームからピア・チューターを派遣してもらい、ノートテイクを頼んでいます。また、ヘルパーを利用して学生宿舎のバリアフリーが整っている部屋で一人暮らしをしたり、周りの方々に助けをもらいながらの大学生活ですが、とても楽しいです。私は教職課程なので特別支援教育についてや、ほかの学群に教科の科目を取りに行っています。教職以外の福祉系の科目も取ることができるので、自分の興味の幅が広がることが障害科学類の魅力だと思います。先生に教えていただいた交流会などに参加してみることも自分が知らなかった世界が発見でき、おすすめです。また、私は学園祭実行委員会の委員長を務めていて、全学規模で色々なことを見ることは大変な部分もありますが、一生に一度の経験だと思うので楽しみながらやっています。このように大学生活はやろうと思えばなんでも出来るので、みなさんも色々なことにチャレンジしてみてください！

筑波大学は全国の障害学生支援の中心

3年 小林愛佳



筑波大学には障害学生が多く在籍しており、彼らの学生生活をサポートするために学生が主体の障害学生支援活動が行われています。講座を受講した学生が支援活動を行う「ピア・チューター制度」がその一つです。支援活動の内容は様々で、ノートテイク、PC要約筆記、資料のテキストデータ化などを障害学生のニーズに応じて行っています。障害学生自身もピア・チューターとして支援チームの運営やピア・チューターの養成に参加するなど、一般学生と障害学生が協力して活動しています。私はコーディネーターという、支援を必要とする障害学生と支援可能な学生を調整する立場から障害学生支援活動に携わりました。その中で、ピア・チューターが制度として設けられていることで、障害学生にとって学びやすい環境を目指すことと支援学生が無理せず支援活動を行うことが両立されていると感じました。筑波大学の充実した障害学生支援にも興味を持っていただき、いつかみなさんと一緒に活動できたら嬉しいです。

卒業後の進路

各履修モデルと 取得可能免許・資格

障害科学履修モデル

本学には障害科学に関するわが国で最も整備された大学院（人間総合科学研究科）があり、学類卒業後には進学することを勧めています。近年、障害関連職種での専門化が進み、大学院修了資格を有するより専門性の高い人材が求められています。進学以外の進路としても、一般社会での障害者の活躍が進み、そのための支援の充実が広がる中で、障害に関連した種々の職種の中で専門家としての知識・技能の発揮が期待されています。教職課程を履修すれば、教員免許状の取得も可能です。大学院では、学校心理士、臨床発達心理士などの申請資格を取得することが可能であるほか、自閉症スペクトラム支援士の実践歴が得られます。

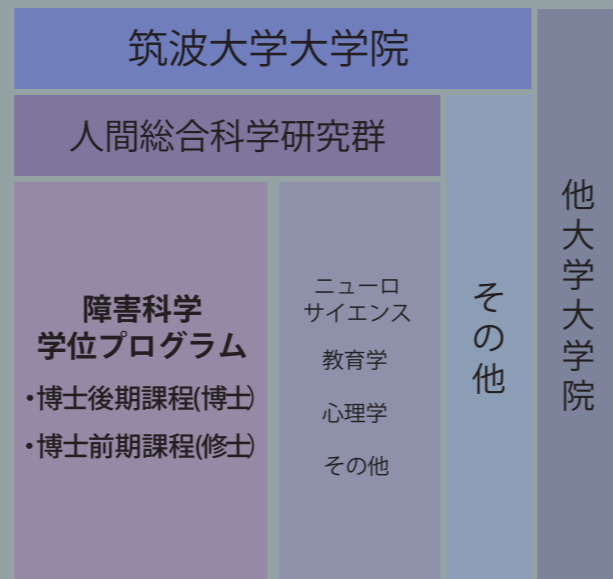
特別支援教育学履修モデル

主として特別支援学校及び小・中学校などの特別支援学級の教員のほかに、国家公務員、地方公務員に就くことを想定しています。また、本学大学院（人間総合科学研究科）への進学も勧めています。学類と大学院との一貫したカリキュラムの履修により、進学者は専修免許を取得し、より専門性の高い教育者・研究者となることを目指すことができます。

社会福祉学履修モデル

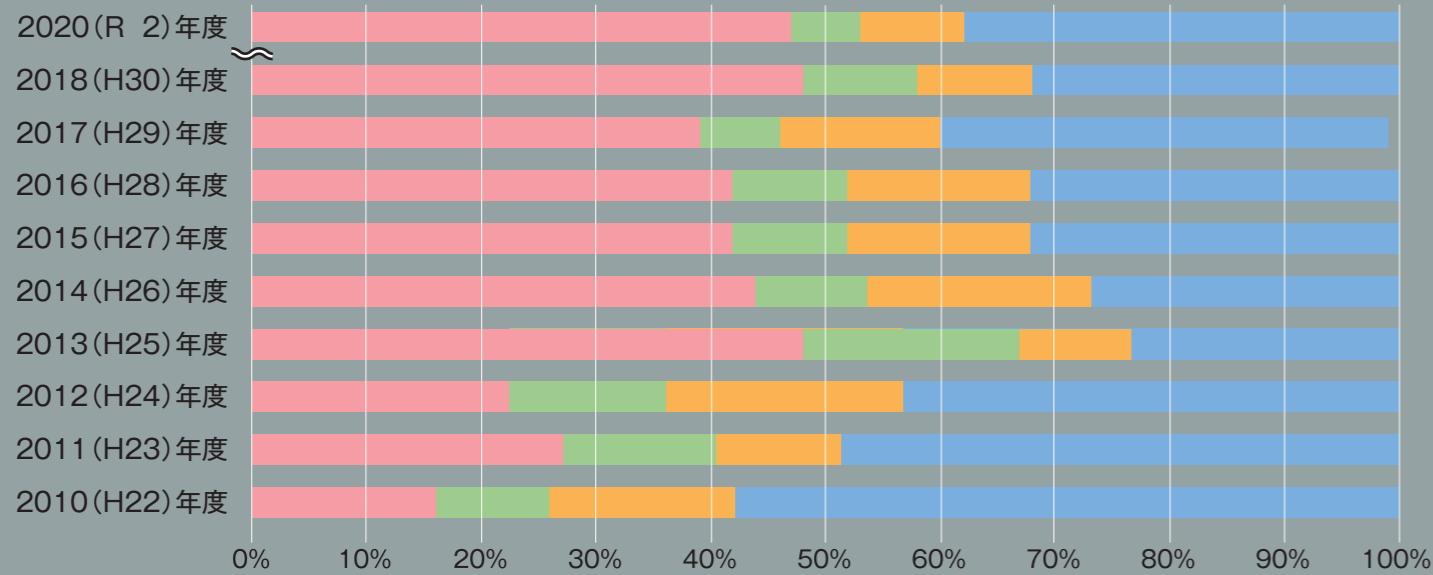
指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。福祉系の国家公務員・地方公務員、社会福祉協議会、教員、障害者・高齢者・児童等の福祉専門職、シルバーサービス関連の一般企業等、福祉の専門性を生かした職種の中で、専門家としての知識・技能を発揮することが期待されています。もちろん、本学の大学院（人間総合科学研究群）への進学も可能です。

学類生の大学院進学先



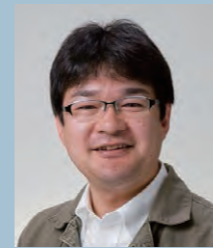
障害科学類

進路実績 主な進学・就職先（障害科学類・人間学類心身障害学主専攻）



- 企業・団体**
 - 三井住友銀行 りそな銀行 常陽銀行
 - スターツコーポレーション
 - 東急リゾート、株式会社オリエンタルランド、株式会社パソナグループ
 - 全日本空輸株式会社、東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）
 - 積水ハウス
 - 社会福祉法人東京都社会福祉事業団
 - 全国社会福祉協議会
 - 各県・市社会福祉協議会
 - 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
 - 各社会福祉法人・各医療法人 ほか
- 教員**
 - 各県の特別支援教育の教員として多数採用。
- 公務員**
 - 厚生労働省・各県庁職員（多くが福祉職）として多数採用
 - 保護観察官
 - 家庭裁判所調査官 ほか
- 大学院等**
 - 筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群
 - 東京大学大学院教育学研究科
 - 東北大学大学院医学系研究科
 - 一橋大学国際・公共政策大学院 ほか

平成 5 年度卒
武居 渡 ■ 大学教員



筑波大学人間学類に入学し、その後大学院心身障害学研究科へ進み、その後、金沢大学教育学部へ赴任しました。卒論では、手話も日本語も習得していない離島に住む就学経験のない高齢ろう女性の自発した身振りを分析するために、このろう者と2か月間ほぼ一緒に生活しました。自分の手で何かを明らかにする面白さに惹かれ、大学院に入学しました。筑波では自分の専門の障害だけでなく、あらゆる障害について学ぶことができます。現在大学で勤務をしていると、私の専門である聴覚障害だけでなく、他障害についても助言を求められたり、学校へ呼ばれたりすることがあります。その時、様々な障害について学んだ知見が役に立っています。また、大学では学生への教育や研究だけでなく、様々な社会貢献も求められます。私は2015年度から2017年度まで、NHKの「みんなの手話」の監修を引き受け、手話について社会に何を知ってほしいのかを考えるいい機会になりました。何より大学では経験できない世界をのぞくことができました。大学ではぜひ自分の専門を深く学んでください。そして他障害の研究をしている先生や同級生とたくさん議論してください。きっとその経験が卒業後に自分の血や肉になると思います。

平成 26 年度卒
伊藤 詩織 ■ 特別支援学校教員



私は千葉県にある聴覚に障害のある生徒達が通う特別支援学校で英語を教えています。聴覚に障害があるという、全く耳が聞こえない生徒に教えている印象を与えるかと思いますが、実状は異なります。残っている聴力を活用する生徒やほとんど耳が聞こえない生徒など様々な生徒と一緒に学習しています。そのため、それぞれの生徒に合った表現方法や伝達手段が必要となり、日々の工夫が欠かせません。どうすれば英語を理解して好きになってもらえるか、と考えながら授業を行っていますが、試行錯誤の毎日が続いています。

しかし、このような教員生活の中でとても役に立っていることがあります。それは障害科学類で特別支援教育に必要な領域（知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）の内容を全て学ぶことができたことです。現在の特別支援教育は生徒一人一人のニーズに応えることが求められており、多様な視点から生徒を見る目が重要です。例えば授業一つを考えるだけでも、聴覚という観点からだけでなく、視覚的なこと、学習障害に関することなど他の障害領域と合わせて考えた方がよい場合が多くあります。その際、障害科学類での幅広い学びが、専門だけでは見えてこなかった可能性を示唆し、新しい授業の展開を模索するきっかけを与えてくれています。また、障害科学類では学生の時から実際の教育現場を見る機会がたくさんありますので、理論だけでなく実践的に学ぶことができます。そのおかげで生徒自身を見るのが大切であるという姿勢を作ることができ、今でも生徒と向き合うことを第一に生徒と関わっています。

今思い返すと、このように障害科学類での学びは、特別支援学校で勤務する私に大切なことを教えてくれるだけではなく、私を支えてくれる糧となっていると言っても過言ではなく、本当に魅力的な学類だと感じています。

平成 19 年度卒
田原 敬 ■ 大学教員



私は現在茨城大学で主に障害児生理に関する授業や聴覚障害に関する授業を担当しており、将来特別支援学校の教員を目指す学生の指導にあたっています。また、聴覚障害者のきこえに関する実験を中心とした研究活動を行っています。障害科学類には2つの特色があると思います。まず、自分の専門領域について非常に深く学べるということです。障害科学類では、障害領域ごとに先生方が複数名ずついらっしやるので、1つの障害についても様々な角度から学ぶことができます。私は聴覚障害を中心に学んでいましたが、聴覚障害児の読み書き能力に関する内容から、聴覚障害児のきこえや発音に関する内容まで、とても幅広く学ぶことができました。また、防音室や聴力検査機器などの設備も充実しており、不自由なく研究活動に取り組むこともできました。大学に在籍していた当時は当たり前だと感じていましたが、今振り返ってみると、自分の専門領域についてここまで深く学べる環境は全国的にも非常に珍しいかと思います。その一方で、自分の専門領域以外についてもしっかりと学ぶことができるということも特色の1つだと思います。大学教員として働く中で、様々なニーズを持つお子さんと接する機会が増え、自分が学んできた聴覚領域以外の知識も必要となる場面が増えてきました。その際に、「これってあの先生が授業で話してたよな…」と思い出すことが、「友人がこのテーマについて研究してたよな…」と思い出すことが問題解決のヒントになることも少なくありません。知らず知らずのうちに他の障害に関する知識が身についたのも、障害について総合的に学べる障害科学類の学びの特徴だったと感じています。このように、障害について「広く・深く」学ぶことができることが障害科学類の大きな魅力だと思います。

平成 22 年度卒
仲本 ひろ美 ■ 茨城県庁福祉職



現在、私は茨城県長寿福祉課で、介護保険に関わる市町村への事務支援や介護従事者の研修業務に携わっています。茨城県でも、少子高齢化が進展する中で、高齢者の方が住み慣れた地域で安心した生活が継続して送れるような取組が求められています。また、行政として、高齢者だけではなく、児童・障害と広い福祉分野に携わることになります。以前、私は児童相談所に勤めていましたが、実際に子ども本人や保護者に会い、養護・虐待・非行等の相談に対応してきました。例えば、虐待ケースであっても、その背景には、経済的な問題があったり、子どもに発達障害等の育てにくさがあったり原因は様々であり、1つとして同じケースはありません。ケースに応じて、市町村・学校・病院・警察など多様な機関と連携して対応をしていく必要があります。そして、私自身が感じることは、どの分野においても、「何かしてあげたい」という「気持ち」だけではなく、実際に制度の中で「どのようなことができるのか」という「広い知識」が必要になります。

私は障害科学類で、社会福祉モデルを履修し、社会福祉士の資格を取得しましたが、熱心で優しい先生方の指導のもと、障害に関する知識や支援の方法を身につけることだけではなく、教育・心理・福祉などの多領域についても学ぶことができました。また、履修カリキュラムにより、障害・福祉の枠を超え、自分の興味のある他の学類の科目履修できることも、特徴のひとつになります。

広く学び、様々なニーズに対応した支援ができる社会福祉士になれるということは、筑波大学の障害科学類ならではの魅力だと思います。

平成 20 年度卒
横井 麻里子 ■ 家庭裁判所調査官



大学卒業後、家庭裁判所調査官という仕事に就きました。家庭裁判所は、離婚など家庭内の紛争を解決する家事事件と罪を犯した未成年者の処分を決める少年事件を扱っています。これらの事件は、単に法的な解決だけでなく、その背後にある人間関係や環境を考慮した解決を図る必要がありますので、家庭裁判所調査官が、心理学や社会福祉学などの専門的な知識を生かしながら調査や調整をしています。

離婚紛争中の当事者や非行を犯した少年など、人生の岐路に立たされている人たちに向き合うことになるので、私たちの関わり方によっては、家族の紛争解決や少年の更生の機会を失う可能性もあり、日々重い責任を感じています。一方で、彼らの人生を大きく左右する場面に立ち合い、関わる中で、紛争解決が見えたときや、変化を感じられたときはやりがいを感じます。

障害のある子どもの養育を巡って争いになる夫婦であるとか、非行の背景に子ども自身の発達障害があったなど、障害の知識が必要となるケースも多くあるので、大学で障害について一通り勉強したことが、今の仕事にも大きく役立っています。障害科学類は、とにかくさまざまな分野の先生方が揃い、総合的に障害について学ぶことができる贅沢な環境にあります。そのため、自らの興味、関心に応じ、専門性を深めたり、広げたりすることができ、教育、福祉等の分野だけでなく、私のように司法の分野であったりと、多方面での将来につなげることができる、魅力的な学類であると思います。

附属学校 関連組織

附属学校

筑波大学には、11の附属学校のうち5つの特別支援学校があり、大学と連携して教育活動をおこなっています。見学や授業参観、そしてボランティアなどを通して障害のある子どもと彼らへの支援の実践について理解を深めることができます。



附属大塚特別支援学校（東京都文京区）
<http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/>



附属久里浜特別支援学校（神奈川県、横須賀市）
<http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>



附属視覚特別支援学校（東京都、文京区）
<http://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/>



附属聴覚特別支援学校（千葉県、市川市）
<http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>



附属桐が丘特別支援学校（東京都、板橋区）
<http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>

関連組織 以下の関連組織もあります。

- 1 附属学校教育局
<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp>
- 2 教育開発国際協力研究センター
<http://www.ciced.tsukuba.ac.jp/>
- 3 心理・障害相談室（筑波キャンパス）
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/IDS3/counsel/outline.html>
- 4 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（アクセシビリティ）
<http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

筑波大学では全学で100人以上の障害のある学生が学んでおり、トレーニングを受けた学生が「ピア・チューター」として支援活動に携わっています。入学式や大学説明会などでもピア・チューターが活躍しています。



ピア・チューター養成講座の様子

入試についての問い合わせ先

- ① 筑波大学ホームページ(入試情報)
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>
- ② 筑波大学教育推進部入試課
TEL:029(853)6007

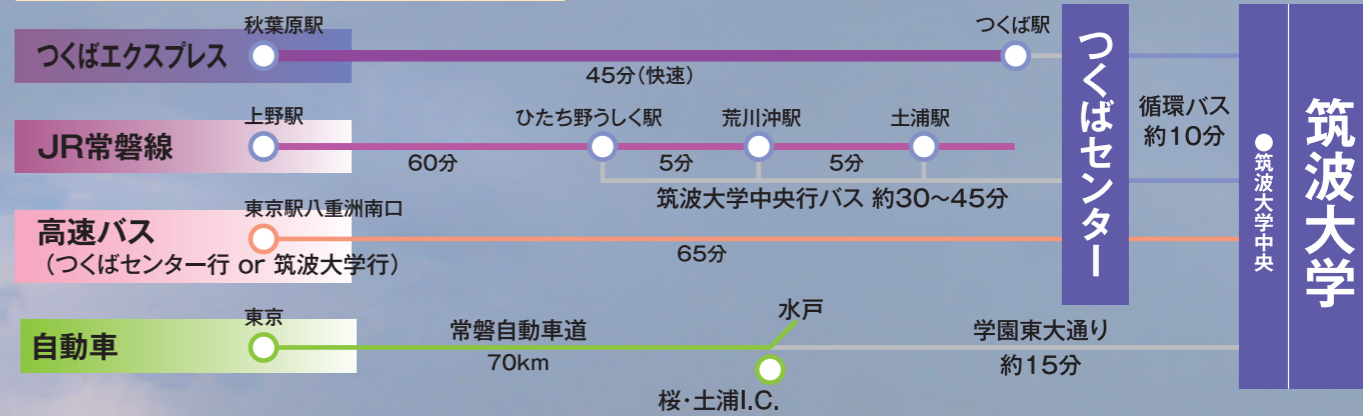
高校生のための大学説明会

毎年8月と3月に、筑波大学において高校生のための大学説明会を行っています。全国から多くの高校生が集まって、プレセミナーを通して障害科学を実体験します。最新の情報は障害科学類ホームページのトピックをご覧ください。



筑波大学までの交通

- つくばエクスプレス:
 - ・秋葉原駅からつくば駅まで最速45分
 - つくばセンターから「筑波大学中央」行バス(約10分)
 - 「筑波大学循環(右回り(左回り))」バス(約10~15分)
- JR常磐線:
 - ・ひたち野うしく駅 バスターミナル東口から「筑波大学中央」行バス(約45分)
 - ・荒川沖駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス(約35分)
 - ・土浦駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス(約30分)
- 高速バス:
 - 東京八重洲南口から「筑波大学」行高速バス(約75分)
- 自動車:
 - 常磐自動車道「桜土浦」I.C.下車、「東大通り」を北上し、筑波大学中央入口 到着(約15分)



筑波大学
●筑波大学中央



人間学群の教員

教育学類	心理学類	障害科学類
磯田 正美	綾部 早穂	岡 典子
井田 仁康	安藤 智子	緒方 昭弘
甲斐 雄一郎	大川 一郎	小澤 温
唐木 清志	岡田 昌毅	柿澤 敏文
佐藤 博志	小川 園子	川間 健之介
清水 美憲	佐藤 有耕	熊谷 恵子
庄司 一子	沢宮 容子	竹田 一則
濱田 博文	杉江 征	鄭 仁豪
樋口 直宏	濱口 佳和	柘植 雅義
藤井 穂高	原田 悦子	野呂 文行
藤田 晃之	原田 隆之	原島 恒夫
上田 孝典	藤生 英行	宮本 昌子
長田 友紀	山田 一夫	山田 実
タスタンベコワ・クアニシ	青木 佐奈枝	岡崎 慎治
國分 麻里	飯田 順子	小島 道生
小松 孝太郎	大塚 泰正	小林 秀之
田中 正弘	加藤 克紀	佐々木 銀河
田中 マリア	川上 直秋	佐島 毅
平井 悠介	高橋 阿貴	左藤 敦子
平田 諭治	外山 美樹	宮内 久絵
蒔苗 直道	藤 桂	八重田 淳
山本 容子	安 婷婷	山中 克夫
遠藤 優介	桶谷 雅人	米田 宏樹
勝田 光	慶野 遙香	ラミチャネ・カマル
川口 純	菅原 大地	和田 恒彦
菊地 かおり	田附 あえか	徳竹 忠司
京免 徹雄	田中 崇恵	名川 勝
徳永 智子	千島 雄太	濱田 淳
名畑目 真吾	登藤 直弥	大村 美保
朝倉 雅史	仲田 真理子	河野 禎之
	生田目 光	三盃 亜美
	松田 壮一郎	藤原 あや
	山口 一大	森地 徹
	佐藤 洋輔	石塚 祐香
	佐野 一広	矢部 愛子
	湯 立	

(令和3年6月1日現在)



College of Disability Sciences 2022
School of Human Sciences, University of Tsukuba

筑波大学ホームページ(入試情報)

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

入試についての問い合わせ先 筑波大学教育推進部入試課

人間学群障害科学類

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/ids/shougai>



筑波大学 学群入学試験に関するお問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

Tel. 029-853-6007

Fax. 029-853-6008

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>